

# 学友会 (関西)



Dedicated To International Peace and  
International Understanding



## 創立10周年記念特集





## 創立10周年記念特集の発行に当たって

ロータリー米山奨学生学友会（関西）

会長 山岡由佳（許紫芬）

ロータリー米山奨学生学友会（関西）は、ことし創立10周年を迎えました。

財団法人ロータリー米山記念奨学会の事業の発展に寄与し、元及び現米山奨学生間の交流を通じて、親睦及び互助を促進すると共に、国際親善及び世界の平和に寄与することが本会の目的です。

本会は、元米山奨学生を正会員、現米山奨学生を準会員、本会の目的に賛同し、会の発展及び活動に援助・協力するロータリアン並びに会員の指導教授を名誉会員としています。

創立してから、思想・生活習慣・文化・言語の違う会員同士の親睦を図ることは簡単なものではない。しかし、各地区米山委員長並びに委員の方々のご指導と強いご期待のもとに、多くの困難を克服して、学友会（関西）は、歴代役員の方々の努力で、継続してきました。

創立10周年記念行事の一環として、11月4

日に創立10周年記念シンポジウムを開催し、学友会組織の連携、留学時の問題点などを討論してきました。学友会は内部親睦の段階を経て、外に向かって留学生・地域社会・国際社会にできる奉仕活動を考えはじめました。

また、年に一回刊行している会報の拡大編集を企画し、『創立10周年記念特集』上梓の運びとなりました。現米山奨学生と名誉会員のロータリアンの方々から沢山の原稿が集まりました。会員の学友会への熱意が学友会を支える力であります。

ここにご協力とご援助を賜ったロータリアンと会員の皆様に深く感謝いたしますと共に、編集に当たった各編集委員の苦勞に心より謝意を表する次第であります。これを機に、学友会（関西）は国際化の21世紀に向かってさらに前進いたしますので、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## お祝いのことば

（財）ロータリー米山記念奨学会

副理事長 増田房二



創立10周年おめでとうございます。月日の経つのは早いもので、大阪駅ターミナルホテルの1階ロビーで、重光さん、魏さんとお会いして、学友会（関西）の会則案について、条文毎に最終的な検討をしたのは、1986年4月28日でしたが、その時のご二人の真摯なお顔が今でも目に浮かんで、つい最近のここのように思えます。前の年の秋に発足した学友会（関東）の会則が17カ条だけの簡素なものであったのに対して、こちらの方は細則を加えると28カ条よりなる完璧に近いものであります。米山奨学会本

部の学友委員会では、もう少し肩の力を抜いた方がよいのではないかという意見もありましたが、重光さんや、法律を専攻しておられる魏さんの、「会の性格とその活動範囲を明確にした方がよい」というご意見を尊重して、私も原案に賛成しました。この会則の右に出るものは今後も恐らく出ないでしょう。

いうまでもなくOBは国籍がまちまちで、在住地域も広範囲に広がっておりますので、現住所の確認を兼ねて、元米山奨学生名簿に基いて学友会結成の趣旨を呼びかけても、

既に帰国してしまった人や転居先不明の人  
もあって、在住OBの把握は決して生やさし  
いことではありません。忙しい時間をさい  
て何度も会合を重ね、考え方の多様性に配  
慮しながら、組織を作り、役員の人選を練  
り、創立準備を進められた当時の、お世話  
役の皆さんのご苦勞は察するに余りあり、  
ただただ感銘の外ありません。そして初代  
会長の重光世洋さん、二代目会長魏栢良さん、  
現会長山岡由佳さん並びに各会長さん  
を守り立て、補佐されて、学友会（関西）  
の10周年をこのように立派に迎えられた各  
年度の役員の皆さんに厚甚なる敬意を表し  
ます。

多様にして異質な文化を持つ皆さんが、  
それぞれの価値観を理解し合い、融合でき  
れば交流のダイナミズムが生まれ、人種、  
民族、宗教、国家のからむ伝統的歴史的対  
立が解消し、世界の真の平和が到来するで  
あろう。学友会の活動を通じて、異文化間  
の理解と共同利益を求め、寛容と奉仕から  
愛の輪を広げていこうという重光初代会長



米山奨学生学友会（関西）が設立された  
のが1986年5月でした。その目的は、

- ①元及び現米山奨学生間の交流を通じて親  
睦及び互助を促進するとともに国際親善  
及び世界の平和に寄与する。
- ②米山奨学事業の発展に寄与する。

この二つを目的としてスタートしたので  
すが、どうでしょうか？国際親善が言葉の  
上だけで終わっていないでしょうか？また  
奨学期間だけでおわっていないでしょ  
うか？国際理解は、顔を突き合わせて話し合  
わないと親善にまで発展しないと思いま  
す。学友会の役員の方々のご努力は大変な  
ものですが、まだまだ正会員・準会員の方  
々のFollow upに物足らなさを感じるの  
は私だけでしょ

うか？の理念が脈々と受け継がれ、実を結びつ  
つあることは喜びに絶えません。当然ながら、  
学友会は作ればそれでよいというものでは  
なく、それを維持し発展させることの苦勞  
は更に一段ときびしいものがあります。理  
念を掲げた重光さん、骨格を作った魏さん  
の後を受けた山岡さんは苦勞を惜しまず、  
才色兼備の申し分のない三代目として、役  
員各位の信頼を得て立派に責任を果して  
おられます。

今度の10周年記念シンポジウムは、さ  
すがに学友会（関西）ならではの見事に充  
実したプログラムでありました。内外の学  
友会代表が一堂に会したパネルディスカ  
ッションは、留学生が果たす役割と出  
合う問題点について、多大の示唆を与え、  
関西学友会の情報発信基地となった感  
を深くするものであり

ました。学友会（関西）が15周年を迎  
える時、世界は21世紀に入ります。米  
山奨学事業の拡大と共に学友会の一層  
のご発展をお祈り致します。

## 国際理解と親善

（財）ロータリー米山記念奨学会

常務理事 <sup>おい</sup> <sup>た</sup> 種 田 憲 次

最近2640地区の正会員の彭瑞彪君（マ  
レーシア）と金京淑（韓国）の素晴らしい結  
婚のニュースを聞いて心暖まる感があり  
ました。学友会（関西）のこれからの発展を  
楽しみに期待しております。





## 米山奨学生学友会（関西）創立10周年に際し

R. I. 第2660地区バスターガバナー

伊瀬 芳吉

米山奨学生学友会（関西）の皆さん方引き続きお元気で勉強にお仕事に頑張っている事と存じお慶び申し上げます。

皆さんの学友会（関西）も本年創立10周年を迎えられます由、一つの節目を迎えることになり、関係者の一人として私からも衷心おめでとうございますと祝意を表する次第です。

皆さん方は米山奨学生としてのご経験をお持ちの方々ですから日本の事情もよくご理解いただけると思います。皆様の母国の事

情又は国際的観点に照らして日本の現状等につき、不審に思われた解かりにくい点等ご遠慮なくご意見を出していただければ、将来の両国関係に役立つ事と考えています。

結論的に申し上げますと皆さん方は日本と皆さん方の母国との末長い親善関係を持続する為お力添えをいただきたいとお願いしたいのです。即ち両国親善の橋渡し役をお引受けいただきたいとお願い申しあげたいのです。是非よろしくお願ひします。



## 学友会（関西）創立10周年への祝辞

（助）ロータリー米山記念奨学会

学友委員長 尾藤 昌平

ロータリー米山記念奨学会の1995年、1996年度の学友委員会委員長を拝命いたしました。微力ではありますが、皆様と共にこの一年間、一生懸命努めたいと思います。

米山奨学生学友会（関西）は今年、創立10周年を迎えられることになりました。

異国の日本の大学に留学されて、立派にその目的をはたされましたみなさんの大半は、母国へ帰って指導的役割をはたされてまいりました。

しかし近年は、そのまま日本で就職され、日本の大学の教鞭を取られたり、あるいは日本社会の一員として、社会の発展に寄与されております。そのようなみなさん方の集いでありませぬ。

最近では学業を終えて、そのまま日本で就職されるみなさんが大変多くなってまいりました。これから米山奨学生学友会も、大変多くの集団に成長するものだと思います。どうかこの学友会が立派に成長されて、後輩のみなさん方の良き指導的役割をはたさ

れることを念願してやみませぬ。

また、縁あって米山奨学生となられた皆様方同士が、日本の地でそれぞれ友好の輪を広げていかれることも大変意義あることであります。

日本のロータリークラブの発展に支えられて、ロータリー米山記念奨学会も驚異的な発展を遂げてまいりました。

米山記念奨学会の事業というものは、現在の結果を求めず、皆様の将来を期待する、息の長い高邁な奉仕活動であります。

学友会の皆様もご理解をいただき、ロータリーとの“絆”を忘れずに学友会活動に積極的に参加されて、米山記念奨学会が未来に向けて大いなる発展を遂げますようご支援をお願いいたします。

皆様のご活躍をご祈念申し上げて創立10周年の祝辞といたします。



## 米山奨学生の皆様へ

R.I.第2680地区バスターガバナー 姫路南R I

森 滋 郎

皆様の毎月受け取っておられる米山奨学金の米山さん、という方はどんな方か、一寸書いてみましょう。米山梅吉さんは、始めは和田梅吉さんで、5才の時お父さんが亡くなり母の里、即ち母が三島神社の神官の娘であったため三島にかえりました。当時より神童の誉も高く、12才時、米山家に養子という話があり、14才時より米山家より沼津中学に通学しましたが16才の時、中学を中退して家出のようにして上京し光華塾に入り後の男爵藤田四郎さんと出会います。彼は中学時代より文藻の才があり当時東京で発行されていた『穎才新誌』に屢々投稿し、夏目金次郎（後の漱石）と親しくなったようです。彼は今後は英語をマスターしなければならないと思い東京英和学校に入学し20才時銀座福音館英語学校に入り、そのツテでサンフランシスコに渡り、桑港福音館の寄宿舎に入り、ハリス博士の指導を受け、28才までボーイ、皿洗い等々苦学し、その間にベルモンドアカデミー、ウエストアレン大学、シラキュース大学で法学を卒業しています。何れもスクールボーイ等の苦勞をされて頑張ったのです。丁度、皆様が故国を離れて勉強されておられるのと似ていますね。彼は滞米中に万国博覧会に商品販売のセールスマンとして参加したり、吾が国の鎖国の夢を破った提督ペリーに興味を持ち、ペリーの生家を訪れ、ペリーに関する資料を集め28才帰国後ペリーの伝記をつくり29才時、題字をお願いに勝海舟を訪れ、この縁で海舟に可愛いがられたようです。

28才帰国後米山ハルと結婚しております。30才時、旧友藤田男爵、勝海舟等の口利きで三井銀行に入社します。何分英語は堪能で背は高く、男前、堂々たる風貌で仕事は熱心ということで、31才時ニューヨーク、ロンドンと外国銀行の実務を勉強し、特に信託業務を研究されたようです。31才大阪支店次長、35才大津支店長、42才常務取締役

大阪支店長という出世振りでした。50才の時勝海舟の口利きもあったと思われませんが、目賀田男爵の経済視察団の一員となりアメリカ各地を視察され、その時ダラスで福島氏と出会い、ロータリーとの縁が始まったわけです。福島さんはダラスロータリークラブの会員で東洋綿花のダラス支店長として綿花の買付をされ非常に人望もあった方で1920年帰国に際してシカゴのロータリー本部より日本にクラブをつくるようにいわれました。彼は帰国後米山氏にロータリークラブ創立の話をし、米山氏は早速当時の錚々たる人物を集めて1920年10月東京・ロータリークラブを創立されました。しかしその翌年1921年長男東一郎氏が20才で亡くなられました。東一郎さんは勉学もすぐれ、体も万能スポーツ選手という方でその急逝には惜みても余りあるものがあり、米山氏の御落胆は大変なものがあったと拝察されます。彼はその年9月より翌年1月の間、アメリカを訪問、フランクリン・ルーズベルト大統領と会見し、又野口英世とも面会しておられます。1924年三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任され、我が国の信託業務の草分けとなりました。しかし1926年6月次男駿二さんも21才で逝去されました。私は米山さんは二児を失った心の痛手を将来ある勉学心のつよい青少年に対する援助ということにむけられたのではないかと拝察しております。しかし「右手の善行を左手に知らせるな」という敬虔な彼は匿名で何名かのアジアの学生を援助しておられ、彼の死後初めて名前がわかり、それ等の学生がお墓参りをしたというエピソードもあります。彼の没後東京クラブのメンバーが日本ロータリーの創始者を讃えるために、いろいろ計画され彼の遺志を尊ぶために、米山奨学会をつくることになり今日の制度が生まれました。今年度は約1000名に及ぶ学生のお世話をされる様になりましたが、

金利で活動費をつくる制度のため、最近の金利の暴落でお台所は大変なようです。しかし日本のロータリアンは、一生懸命努力して頑張っておりますから皆様は、安心して

勉強に打込んで下さい。以上米山梅吉氏の人物像の一端を記し、皆様のご理解が得られたら幸いです。



## 学友会関西の創立10周年を祝う

(助)ロータリー米山記念奨学会

米山学友委員 戸田 孝

学友会(関西)が創立して10周年を迎えたことはとても嬉しいことです。それに加えて「創立10周年記念特別特集」を発行され会報12号となりますことに、学友会(関西)の皆様にご心から御礼を申し上げたいと思います。遠く祖国をあとにして、日本の土をふまれて幾年月、困難な日本語を克服され、日本の大学に入学されて勉学に励まれてみごと修士、博士号を取得されました、そして懐かしい祖国へ帰って努力される人々、日本へ残って真剣な活動を続けられる皆様のすべてが米山財団設立以来の米山学生総数-6156人の中の1人1人であるのです。これら学友の中には社会に出て第一線で活躍している人々-学界、経済会、医学、福祉をはじめあらゆる面で貢献していることに敬意を捧げます。米山O.B.で日本に残っている人々を地域毎に、学友会北関東、関東(県ごとに細分)、関西、西日本と分けて、それぞれが親睦を通じて後輩の世話をし、情報を提供している。海外については、近くて遠い国と言われる韓国と日本との親睦と理解を推進するために親善会議をもとうと両国のロータリアンの間で決定され、第1回はソウルで韓日親善会議、第2回は1983年に神戸で日韓親善会議が盛大に行われた。私が米山奨学会の学友委員長をしていた時にソウルで開かれた韓日親善会議に出席したことがあった。前理事長湯浅恭三氏、副理事長増田房二氏、常務理事湯原竹之助氏、南郷事務主事の皆さんとご一緒しての初めての参加であった。韓国の学友の皆さんも多数参加してなごやかな親善会議になったが、会議の前の時間を利用して大学教授の2人が大学の構内を案内され詳

しく説明していただき、学舎が丘の上にある環境を羨ましく感じた。本会議に際し学友の皆さんから名刺をいただき驚いた。元国土統一院長官、大韓商工会議所会長、ソウル大学教授など多士済々の学友が集まって来られた。本会議では前理事長湯浅恭三氏の挨拶、学友会会長の心温まる話もありました。会議が終わって、ある学友が私に次のように語ってくれたことは今でも心に残っている。「私は米山学生として京都大学医学部で学びました。カウンセラーとスポンサークラブに、たいへんお世話になり、苦しい中でも充実した生活をおくりました。現在ソウルで病院を運営し、ロータリークラブの会長をつとめました。私は医学を通じて人の為になることを、と考えてソウルを流れる川の右岸が以前、ゴミの捨て場になっていました、都市が発展するときはゴミも増えてくるのですね、その場所に小さい集落があって大人も子供も住んでいました。ゴミから発酵した汚物、悪臭は住民のからだを虫ばみ病人が多く出ました。私は週に1回その集落を訪れ健康管理をしたのです。重症の患者を入院させましたが、放置すると死者がでるおそれが出て来ました。ソウル市もこれを問題視してゴミを捨てることを禁止し、今までの塵の上に土を入れて改良したのです。現在は良い環境になっています。その後はあまり問題はなかったのですが、ソ連の原子爆弾実験の後遺症で多くの方が苦しんでいるという情報が入りコザック共和国を訪ねました。ソウルからモスクーに飛びモスクーからコザックに入るというルートです。行って驚きました。明らかに原爆症らしい人がたくさんいたの

です。私は多くの人を診察しその人々に適した治療をしました。ソウルからこの地へ行くのはたいへんな時間がかかりましたが、毎月1回はコザックへ飛んで医療を行ったのです。原爆症の少年を自分の病院へ連れてきて治療を施し軽症となったのでコザックへ帰宅したこともありました。お互いに助けあって良い環境にしよう、思いやりの心で世の中を明るくしようということが米山学友のつとめと思っています。」私は彼の話聞いて米山奨学会が日本で学びながら生活するという苦しい時期に奨学金を出し、スポンサークラブとカウンセラーが精神的な支えをしながら相談相手になるという秀れた形で活動してきたのであり、それを全ロー



## 関西学友会の創立10周年を祝う

R. I. 第2680地区 米山記念奨学会委員会  
委員長 市居嘉雄

ロータリー米山奨学生学友会（関西）が創立10周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。

関西学友会の皆さんが力を合わせて会の運営と発展などに努めてこられたことに対し、深甚なる敬意をばらうものであります。

当第2680地区の米山奨学会委員会としましては、関西学友会との交流が近年とみに盛んになってきましたので、創立以来これまで10年の間に何かと支援されてきた関西の他地区の米山奨学委員会に対しまして、この紙上をもって謝意を表したいと存じます。

さて、米山記念奨学会の事業はご承知の通り、主としてロータリー所在国からの外国人留学生に対し、奨学金を支給したり世話をしたりして、ロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与することを目的にしています。次学年度からは、1,000名の奨学生が増えることが予定され、21世紀に向かってますます米山奨学会の役割が期待されているわけです。

それに伴って、奨学生のOB・OGも年を追うごとにふえることとなりますので、母国へ帰る人数はもとより、日本に留まって学友会

タリアンからの醜金によって、すべてのサイクルができていることに素晴らしさがあるのだと思うのです。今後とも、この制度が充実することによって、さらに米山奨学会は日本ロータリアンは勿論隣国の人々にも訴え続けることであろう。米山O.Bも増え、故郷で活躍している学友の組織が韓国で扶輪米山会となり、台湾の学友会もつくられた。米山の心はロータリーの流れにそって、多くの国々の秀れた若者に継がれてゆく。喜びを3つに分割と喜びは3倍に、苦しみを3つに分割と苦しみは1/3になる。という関係を永く永く続けていきたいものである。創立十周年を迎え、さらなる前進を期待いたします。

の会員となる人も増加することでしょう。母国へ帰った元奨学生も、日本に留まった元奨学生も、なんとか母国と日本の間のかけ橋役になってほしいと、私達ロータリアンは願っています。

米山奨学生の母国は、最初はアジアの2カ国でしたが、今や殆ど世界中の数十カ国に及んでいます。「ロータリーの友」などによりまして、台湾や韓国などでは元奨学生の会ができていて、奨学会の理事などが訪問した会合に多数の元奨学生が出席したとのこと。

このような元奨学生の会がそのほかの国々でも作られたら素晴らしいと思います。それと同様に、日本に留まることになった奨学生諸君も、なるべく地元の学友会に入ってほしいと思います。ただ現在のところでは、学友会が組織されていない地域もあります。なるべく21世紀までに日本各地域に学友会ができ、それらの横の連絡がとれるようになればよいなあ、と私は考えています。

それがひいては母国で元奨学生の会が生まれやすくなるのではないかと考えていますし、また、その会がまとまりやすくなるので

はないかとも思っています。

先に申しましたように、奨学生の国籍が多様化するようになってきましたので、学友会のメンバーも次第に多国籍化してまいりました。関西学友会の方々には、それら多国籍化するメンバーの受け入れに、従来以



## ロータリー米山奨学生学友会（関西）創立10周年に寄せて

R. I. 第2660地区米山奨学委員会

委員長 渡 辺 斌

創立10周年を迎えられた米山奨学生の諸先輩方の今日の姿を見て本当に嬉しく感じます。

当然、各々の母国から日本へ勉学の志を胸一杯に持って来られても知らぬ他国で言葉の問題や考え方のニュアンスの違い文化・風習の違い等でとまどわれた事と察します。

しかし諸兄姉はそれ等にも耐えて考え方もグローバルで素晴らしい感性を身に付けておられる。その上縁あって私達日本の127,700名余のロータリアンと交流され、少しでもその考え方を理解された事と思います。

私達ロータリアンの願いはこれ等の交流によって国際理解と国際親善に徐々にでも良いから又私達の生きているこの大切な地球とに住む人々が仲良く平和に手を取り合っ

上に友好親睦を心掛けてほしいと念願致します。

創立10周年を迎えられるに当たって、祝意と共に、将来への夢も語らせて頂きました。20周年に向かって一層のご発展を祈念申し上げます。

て築きあげたいと言うのが本心なのであります。今、直ちにそれが成れば言う事はないが私達がいなくなった何十年先でも良い、今の若い人々どうしが又子々孫々に至っての人々どうしがこの願いをかなえて呉れる事を願い、たのしみに御奉仕に心をくだいているのがこの米山事業なのです。

母国に帰られて各々のお国で活躍されている話を聞いて心から嬉しい、又その上に各々の国で学友会が出来たと言う事を聞くにつれ、又日本に残られて各自の能力を磨いておられる在日学友会の諸兄姉の姿は始めに述べた様に国を超え、他の諸条件を超え国際理解と親善だと思えます。留学生どうしも仲良く手を取り合ってこの世の中を明るく豊かにして行きましょう。



## 米山学友会10周年・野茂の活躍

R. I. 第2660地区米山学友会担当

平 岡 龍 人

米山奨学生学友会も発足して10年になります。

この間、ロータリアンは勿論の事、多くの学友会の人達の努力がありました。中でも役員になられた方々は、自分の時間を割き、本当によく頑張られたと敬服します。

これからも、更に次なる10年、20年と発展していくように期待しています。

私はこの学友会の会報を読むのをいつも

楽しみにしています。それはここには学友会OBの人達の生きる努力の跡が書かれているからです。

日本もほんの20数年前までは貧しい社会でした。特に終戦直後は総てを焼きつくされ、全くゼロの状態から再スタートしたわけです。しかしながら60年代、70年代と高度成長が続き、豊かな社会が実現して来ると、昔の必死になって努力した姿が遥彼方に

去り、豊かさに惚けた人達がどんどん増えて来ています。そんな中でこの米山奨学生たちの姿は、日本人が忘れた何かがあります。

今年、1月17日に起こった阪神大震災以来、暗いニュースが続きました。

しかしながら日本の社会を喜ばせる事件もありました。それは米大リーグで活躍した野茂のニュースです。野茂の活躍は日頃の鬱憤をはらす明るいニュースでした。しかもこれは日本人だけではなく、ストで信頼を失った米大リーグを活性させ、アメリカの人達にも大歓迎されたニュースでした。

21世紀はアジアの時代だと言われています。

しかしながら21世紀がアジアの時代にな

るには、経済だけではなくあらゆる分野に於て、世界の人達に感動を与えられ、喜びを与えられる人達が輩出して来るのが何より重要なこととなります。

野茂の活躍はその事をいみじくも示しているニュースでした。

これはスポーツ分野だけのことではありません。学術や美術や音楽、哲学や文学等の分野をアジアからリード出来た時、初めて世界の人達はアジアを世界のリーダーとして認める事になるのではないのでしょうか。

米山奨学会に関係して来られた貴方たちこそ、その活躍する世界を、自分の国や日本に限定するのではなく、地球規模であって欲しいものです。期待しています。



## 慶祝 学友会（関西）創立10周年

R. I. 第2650地区・米山奨学委員長

黒田正名

ロータリー米山奨学生学友会（関西）創立10周年記念にあたり、学友会の皆様から心からお慶びと敬意を捧げます。

年毎に増加して行く米山奨学生学友が、お互いに強い共感をもって結束され、世界の国々において米山奨学生学友の“心”を、それぞれの社会の中で結実させていただくことを願っております。

日本独自の奉仕事業であるロータリー米山記念奨学会のために日本全国のロータリアンは、何も言わずに寄付を続けておりますが、日本のロータリアン達は米山奨学生に何を期待しているのでしょうか。

米山奨学生の皆様は留学中に、多くの国の人々と接して、それぞれの考え方・風俗・習慣・文化の違いに驚きながら、お互いを理解し合います。そして、どのような国の人々でも人類としての基本は変わらないことを発見されたでしょう。

皆様は、帰属して行かれる社会で指導的な立場にたたれることと存じますが、皆様は留学中に得られた“どのような国の人々でも、お互いを理解すれば争いは避けられる”

という米山奨学生学友の“心”を終生、周囲の人々に語り続けて下さいますことを心から願っております。

「国際相互理解による平和と文化の伝達者」である学友会の皆様に、再び心からの敬意を表します。





## 学友との交流の重要性

R. I. 第2650地区1993～'94年度米山奨学委員長  
1995～'96年度米山選考委員長

清水 武彦

### 歴代役員への感謝

「ロータリー米山奨学生学友会（関西）」が創立10周年を迎えられたこととお祝い申し上げます。そして何よりもこの10年間、多忙な生活の中で役員として奉仕してこられた学友の方々に敬意を表します。

同じ大学の卒業生会の世話でも中々大変なのに、国籍、大学、専攻、思想信条、生活条件等の違う人々が関西に在住する元米山奨学生という一点だけでつながる集いなのですからよく長続きしてきたものだと感心します。

ロータリー米山奨学会の担当理事さん達始め関西4地区、とりわけ第2660地区の米山奨学委員会の方々の支援があってこそ続けられたのでしょう。直接お世話下さってきたロータリアンの方々にも感謝申し上げます次第です。

米山学友と全てのロータリアンとの交流ももっと密接に、末長く続けていきたいと思いますが、ロータリー活動のやり方と米山奨学事業には若干の違いがあるので、交流を深めるには地区や各クラブでの努力が必要です。

そこで私たち第2650地区の試みをご紹介して学友の皆さん方のご理解を得たいと思います。

### 世話クラブが学友交流の原点

米山記念奨学会が今年も「学友名簿」を発行しました。事業報告書によると1994学年度までの米山奨学会は5,207名ですが、3分の1位が現住所不明だそうです。第2650地区でも363名の学友の4分の1位が不明です。

これは大変残念なことです。日本国内在住者による学友会の存在意義があらためて評価できることです。

一度断絶した交わりを復活することは中々困難です。断絶の原因は学友にあるのか、カウンセラーにあるのか、日本の社会事情にあるのか、個々の場合で異なるでしょ

うが、断絶しないように関係ロータリアンから学友との交流を積極的はかっていくべきだと思います。それは米山奨学事業を支えている全ロータリアンへの責任でもあるからです。

学友との接点は元カウンセラーですが、カウンセラー任せで元世話クラブの現役員が知らん顔では困ります。しかし、ご承知のようにロータリークラブの役職は毎年度交代して新しい役職を経験するのが原則ですから、毎年度の会長や米山奨学委員長が常に学友に関心を抱いているとは限りません。

そこで第2650地区では1993～'94年度から全元世話クラブが「学友管理台帳」を整備し、カウンセラーだけでなく毎年度の会長、米山奨学委員長が学友と交信することを勤めています。今年度も新名簿の当地区出身者分の内容を奨学会のコンピュータからアウトプットしてもらい、元世話クラブ別に仕訳して各クラブへ送って台帳整備を要望しました。

### 地区の学友交流事業

地区には奨学会の地区担当理事がおかれ、第2650地区の担当理事は増田房二奨学会副理事長で、長年指導しておられます。

しかし、ガバナーや地区米山奨学委員はクラブの会長や役員のように毎年交代するわけですし、学年度とロータリー年度が違うこともあって、学友との交流のように息の長い事業は地区担当理事に任せがちになります。

そこで当地区ではガバナー・地区委員と奨学生・学友との親交を深めるために幾つかの試みをしています。

その一つは、オリエンテーションと終了式・歡送会にその年度のガバナーとガバナーノミニ、さらにはガバナーノミニ予定者、次年度地区委員の参加を求めることです。また奨学生の選考にもガバナーノミ

ニーの参加をお願いしています。

今年度の坂部慶夫ガバナーは機会あるごとに「カウンセラーと奨学生が手をつなぐ米山奨学事業。これぞロータリー」と語っておられますが、これはガバナーノミニの時の選考試験やオリエンテーションでの実感です。

坂部ガバナーの月信10月号は米山月間特集で「ガバナーと学友の座談会」が企画されました。

周璋生氏（中国、1993.4～'95.3.奨学生、京都洛中RC、京大工学博士、(財)地球環境産業技術研究機構勤務）と、朴信貞さん（韓国、1993.4～'94.3.奨学生、奈良西RC、奈良女子大学博士課程在学中）が参加して下さいました。

「米山だより」にも学友の声が載せられていますが、より身近なガバナー月信によって地区内全ロータリアンに学友の話が届いたことは意義ある試みでした。

さらに全クラブの米山委員長と学友の交流をはかるために、1993～'94年度から、2月に開催する終了者の歡送会に、終了者のカウンセラーと指導教官、継続奨学生、全クラブの米山奨学委員長とともに、地区内在住の学友約70名と元カウンセラーも招いて学友との交流プログラムを組むことにしています。

まだ2回しか行っていませんので、学友の

の参加は地区内居住者の1～2割程度ですが学友たちのスピーチはいつも出席者に新たな感銘を与えています。この感動がまた、各クラブで米山奨学会への募金を進めていくエネルギーの一つになるわけです。

他地区出身で現在当地区内に住んでおられる学友にも案内しましたが参加者はありませんでした。学友会と違って当地区の事業ですから参加しにくいのでしょうか。

ゆくゆくは日本国外在住の学友も招くことができたと思っています。

#### 学友との交流の重要性

皆さん方学友はロータリー米山奨学事業の生きた果実です。奨学生がいないクラブでも年々奨学金のための寄付が積み重ねられています。何のためか、抽象的な理屈ではなく、ささやかな善意がこのように役立っていると学友に示して頂いたら、この事業の重要性が実感されて、次の留学生を喜んで支えていこうということになります。

学友会は学友相互の親睦が第一の目的だと思いますが、米山奨学事業をさらに充実、拡大していくためには、学友の皆さんとロータリアンとの交流が深められることが極めて重要だと思います。

我々も努力しますが、皆さん方も元カウンセラーとのつながりを大切にしつつ、元世話クラブの会員たちとの交流を心がけて頂きたいと願うものです。



## 米山奨学生関西学友会発足10周年を迎えて

R. I. 第2650地区 学友担当米山選考委員

苜 坂 毅

このたび、関西学友会が発足して10周年を迎えるにあたり、関係皆様方に心よりお祝いを申し上げます。

本年は第二次世界戦争終結五十年目の節目に当たると共に、米山梅吉翁の五十年忌を迎える年でもある。ロータリー米山記念奨学事業は翁を記念し創設された私設での日本で最大の規模と、独特のプログラムが用意された奨学制度です。その趣旨、目的、規模は、全ロータリアン並に米山奨学生

OBは十分ご承知のことと存じますが、関西学友会が発足して十年を迎えるにあたり、奨学生を通じて、「あらゆる民族や国々は互いに知り合い理解することによって争いが避けられる」と云うロータリーの基本理念が具現されている一端を述べ、関係皆さんの今後のご協力を懇願する次第です。

私の所属している第2650地区奈良西ロータリークラブは、一九九三年に韓国の麻浦ロータリークラブと姉妹提携をいたしました。

その時、相手方のクラブの初代会長 林隆義さんを知ったのですが、増田バストガバナーより、彼は米山奨学生OBで、しかも京都大学医学部時代に第2650地区でお世話をした方です……と仄聞した次第です。驚きと何かの因縁を感じた次第です。未だ短期日の交流ですが、林さんの偉大なお人柄と米山奨学生OBとして帰属された韓国社会で、立派にその役割を果たされつつあることを知り更に敬意の念にかられた次第です。

林さんは過年度R I本部より「超我の奉仕賞」を受賞されました。米山奨学生OBの仲間よりこの賞をお受けになられたことは、米山奨学会の支援者であるロータリアン並に奨学生一同の名誉ではないでしょうか。さぞ米山梅吉翁も幽境の地より大拍手を送っておることと確信しております。私達の



大空に向けて飛び上がる鳳凰鳥のごとく、大きく羽根を広げ10周年をお迎えになりました学友会関西の皆様方、誠にお目出度うございます。

ひとくちに10年と申しましても、ここにたどりつくまでは、幾多の茨の路であった事と思います。

私共ロータリー第2640地区は、会員は少ないですが、中でも特に米山奨学会に対してのご理解が大きく、年間の寄付に致しましても全国34地区の上位に位置するところでございます。私共地区では、優秀な学生を受け入れ一層の学問を身につけ、学校を卒業されて、日本に残られる立派な卒業生を関西学友会にお送りさせていただく事です。それが、やがては、日本と母国の大きな掛橋になると思っております。

去年は、学友会の皆様方と京都方面への秋の親睦会に参加させていただきましたが、初めてお会いした方もございましたが、お会いしてみれば会員が昔からの友達のように

やっている米山奉仕事業、行為は、来日留学生より見ると些少なごとと見られておりますが、何れは大きな大きな梅吉翁意思の具現になることを信じております。

米山奨学生の多くは、やがて彼等が帰属して行く社会の中で指導的立場に立つ人達であり、彼等は終生「相互理解による平和」の可能性を彼等の周囲の人々に影響し続ける「相互理解と平和の使者」となる方です。その使者を一人でも多く送り出したいと念じております。

韓国麻浦ロータリークラブより、関西学友会十周年記念パネル、ディスカッションに遠路パネリストとして、ご参加されました林隆義さんこそ、真の米山学友であり、真のロータリアンであると確信して止みません。

## 学友会関西の皆様へ

R. I. 第2640地区・米山奨学会

委員長 永井孝弘

に和気藹々とした心のつながりを感じ、私達も大変楽しい一日を過ごせた事に喜びを感じました。

今後は私共奨学会と致しましても、学友会に対しての一層のお力添えを致すと共に、学友会関西の今後益々のご発展と会員各位のご健康をお祈りし、お祝の言葉とさせていただきます。





## 米山学友会（関西）のおいたち

米山学友会（関西）相談役

重光世洋

1986年5月11日に新阪急ホテルにおいてロータリアン皆様の祝福のもとで、僅か21名のOBでもって発足創立した学友会（関西）は御蔭様で今年で満10周年を迎えました。在阪の学友会会員200有余名の内、活動に参加して頂ける会員数も年々増え、その基盤は着々と頑固たるものになりつつあります。これは偏にロータリアンと学友の皆様のご理解とご支援に外ならないものと感謝しております。その実質的な運営に苦勞と奉仕を惜しみなく捧げてこられました歴代の会長、幹事長並びに役員皆様でおられることも忘れてはなりません。現在日本国内では（関西）以外に、（関東）（1985年）、（北関東）（1987年）および（西日本）（1988年）の学友会があります。それぞれ地域の特色を駆使して活躍しておられます。

そこでこれを機会に、学友会（関西）の創立に至る過程を簡単に振り返ってみたいと思います。ちなみに学友会を作ったかどうかというお話があったのは、小生がリバーサイド・ホテルで開催されました1985年度のR I（国際ロータリー）第266地区（当時）ロータクト年次大会に招かれた時の席上で、伊瀬バスターガバナーと武尾地区米山委員長（当時）からでした。一応創立準備の責任者兼臨時会長として小生が、そして文燕友さんが副会長ということでスタートすることになりました。その後、1985年に実質的に創立準備を開始し、そして会則の原案作成時に国際法専攻の魏栢良さんが加わり、R I第2650地区バスターガバナー増田房二さん（現ロータリー米山奨学会副理事長）の御助言を頂きながら、共にいく夜と遅くまで大阪梅田駅の喫茶店で検討した思い出があります。この会則が1986年創立総会において承認されたときは本当に嬉しい思いが胸一杯でした。発足当時の役員は、会長重光世洋、副会長林錫璋（D-2640担当）、清河雅孝（D-2650）、文燕友

（D-2660）、莊園福松（D-2680）の4名、幹事長魏栢良、会計監査豊田秋雄、その他幹事6名で構成し、会の活動を行いました。正会員はR I第2640、2650、2660および2680の4地区に在住する米山奨学生終了者で、準会員はこの4地区に在籍する現奨学生を対象としました。当時の創立総会に係る通信連絡費やホテルでの総会費用等の手あてがまだ出来ていなかったのも、当時の責任者は大変であったと記憶しております。それにしても一番困ったことは、学友の連絡先の確認でした。最初は奨学会発行の学友名簿に基づいて発信しましたが、学友から返信のありましたのは僅か20%程度の40名程で、転居、帰国などで返信したのも20%程度、音信不通が大半を超えていたのはなんとなく落胆させられました。しかし、幸いに年次総会および秋期懇親会の案内状や会報の発送の回を重ねる度に、会員の連絡先についての把握が増し、現在では100名を越える会員と連絡がとれるようになりました。

初年度の活動はまず幹事会の開催からのスタートであります。会議所は当時のR I 2660地区ガバナー事務所を利用させて頂いた。ただし、日曜日しか利用できないので、事務所の持ち主でおられます難波ロータリーの谷口勉先生には休日までも返上してお世話を頂いた。初年度の主な活動は8月に地区ロータクト主催の野外料理大会に会員30名程参加させて頂いた。本会主催のメインの秋期の懇親会は、小雨の降る晩秋の一日を伊瀬バスターガバナーの御好意により大阪駅近くにあるダイハツの職員食堂で開催させて頂いた。会員以外にはロータクター、一般の留学生も多数参加して、約6時間にわたり、「国際理解へのアプローチ」というテーマで、それぞれの会員自国の結婚の習慣などについて話し合った。懇親会では各国の歌や楽器による演奏を披露し、

とくに二弦胡琴によるねおとは郷愁を誘った。1987年度の主な活動は5月の総会および11月の懇親会（大阪桜宮府職員会館）を開催。そして2660地区ロータクトとの交流会、同地区主催の米山奨学生レクリエーション（神戸ワイン城）、米山月間に各RCへの卓話、各地区の新規奨学生オリエンテーションおよび終了者の歡送会、地区I.G.Fにパネリストなどに学友代表が参加し、多彩な国際親善と活動を行った。それ以来、学友会の活動はこれをベースに年々拡大し、また奨学会および各地区の御好意により1987年度から資金援助を頂戴し、活動の大きな糧となっている。感謝。

会報第1号の発行されたのは、創立翌年の1987年でした。第1号、第2号ともに現在のような立派なものではなく、ワープロによる手製でしかも装丁はホッチキス止め、表紙の絵および文章の中の差し絵も会員の手書き絵などをコピーし使用し、黑白のもの

のでした。表紙の土筆の絵は学友会の活動が大地に芽を出し始めたことを象徴したものでありました。会報の作成には不慣れも手伝ってかなりの時間と労力を費やしたこと、完成したときの喜びも人一倍でした。現在のように立派な会報になったのは3号からです。

会報も回を重ね12号となりました。これは学友同志は勿論のこと、ロータリアン皆様との唯一の有形の繋がりであり、また学友の活動記録資料として残るものでもあります。

この目出度い創立10周年を迎えられたのも、ロータリアン並びに会長山岡由佳さんを始め、役員皆さんの献身的な御奉仕による賜物であることを感謝し、そして皆様の今後一層のご支援をお願いし、この小記といたします。





## 堺の能舞台

R.II第2640地区 パストガバナー

大澤 徳平

日本の古典芸能「能・狂言」をご覧になりましたか。

「謡曲（うたい）」はご存じですか。

まずは謡曲とは能を演ずる時の歌詞のことです。能を演ずることまではやらず、楽曲だけを楽しむ人は昔から沢山おられます。能を鑑賞するに役立ち、能を楽しむためです。

私の生まれた堺でも室町時代（1500年代）から町民の間で流行し、堺商人の子供たちは教養の一つとして、謡曲が必修科目のようなもので小さい時からお稽古をされたと聞いております。流派は、観世流・金剛流・金春流・宝生流・喜多流の五流あり、堺からは喜多流の始祖・喜多七太夫（1586-1652）が出ています。

私の兄弟姉妹も、小さい時からお稽古をさせられていましたもので、ご先祖が残してくれた土地に貸ビルを建てる話から、その中庭の利用法で兄弟で話し合った結果、自分たちの稽古場を作ろうと話がまとまり、その道の先生方に相談したところ同じ建てるならばもう少し大きく、もう少し良いものを、とのアドバイスから段々エスカレートして、歴史ある堺にふさわしい本格的な舞台を建てることになり、最後は母の英断で総檜造りの檜皮葺きを建てることになりました。今から27年前のことです。

3年がかりで檜材を確保して、超一流の宮大工・浜田豊太郎氏に依頼、2年をかけて完成致しました。3階の吹き抜けで、3間（6メートル）4方に4間（8メートル）の橋掛り（花道のようなもの）を備えた本舞台で、『道明寺』で使用する大きな釣鐘もつれる高さもあり、本格的なものを造りました。座席は補助席を入れて250席と、やや見所（観覧席）もの足りない感がありますが、本舞台に重点をお置いたため少々犠牲になりました。

以来20数年、地元では謡曲だけを楽しんでいた方でも仕舞をお稽古するようになり、仕舞から舞囃子へ、さらに能に挑戦される方も多くなりました。「全く素人で、今まで考えられなかったことが、この舞台のおかげで夢がかないました」と喜びの言葉を聞きますと、本当に建てて良かったと共に喜んでいきます。

また、古典芸能とは縁の遠い中学生に対して、国語の授業で学ぶ「狂言」を、自分たちも演じて体験してもらおうと始めた「中学生のための狂言鑑賞会」も、数えて9年目に入りました。日ごろ元気が余る中学生、先生は何か問題が起こりはしないかと心配したが、学校の体育館や講堂とは違って、本物の能舞台で本職の狂言師が演ずるだけに、静かに、目を輝かせ、からだを乗り出しての鑑賞に一安心、生徒の中から7～8名が白足袋を履いて舞台に登場、狂言師のしぐさを反復したり、大きな声を出して台詞を言ったり、狂言独特の演技を学ぶ。舞台の上は緊張の連続、それとは対照的に、見所からは笑いがおこる。盛り上がったところで、本物の狂言を一番鑑賞するというプログラムです。

学友会の皆様

ぜひ一度お運び下さい。

私の自慢の舞台に。





## 「ご縁」を大切に

奈良RC

吉田 淳一

「オユクダサイ」外国、とくにアジアから日本に留学してきた人たちにとって、これは最初に覚えなければならない言葉の一つだ。即席ラーメンのお湯である。三度の食事すべてをこれですます学生もいる。

これは1988年（昭和63年）4月19日付の朝日新聞の社説「留学生に大きな援助を」の冒頭の記事である。

奈良ロータリークラブが、初めて米山奨学生を受入をしたのは1975年で、韓国出身の奈良女子大学学生の、申京珠さんであった。

当時は、この社説より13年前のことである。クラブもカウンセラーの私も初めての体験であった。彼女は聡明であり寸暇を惜しんで良く勉強をした。又非常に好感をもてる学生で、奈良クラブでは、メンバーもその人柄にひかれて、物心において支援された。彼女は現在ソウル、漢陽大学の教授になり、度々来日され国際交流にも活躍されている才媛である。

奈良クラブは、最初の米山奨学生だった、申京珠さんの受入れが頗る好成績だったの

で、奈良クラブでは、その後20年間に28人の米山奨学生を受入れた。私はこの間に5名の米山奨学生のカウンセラーをした。その方々とは、帰国後も文通を続け、結婚式、出産など家族同様な交際をしている。

私の経験からみると、留学生とカウンセラーとの関係は、本当に不思議な「ご縁」があって結ばれたもので、折角のこのご縁を大切にしなければならないと思ふ。

又、留学生と共にその家族の方とも交際することが望ましい。帰国されたあとも文通を続けることは、留学生の方は勿論であるが、カウンセラーの方からも積極的にすべきであろうと思う。奨学生の期間だけ、又帰国してそれで終わりでは極めて残念なことである。

奨学生が、将来帰属していく社会の中で、指導的な立場に立つ人達であり、青春の一時を日本に留学したことを思い出して、国際理解と活発な国際交流に寄与して頂きたいと思う。

## ロータリー米山奨学生学友会（関西） 創立10周年記念シンポジウム報告

記録整理：文楚雄  
顧海松

ロータリー米山奨学生学友会創立10周年記念シンポジウムは去る11月4日(土)午後13:00から17:00に大阪国際交流センターに於いて開催された。学友会会員27名、米山奨学生15名、ロータリアン22名が参加された。シンポジウムの来賓として、米山記念奨学会副理事長の増田房二様、同奨学会常務理事の種田憲次様、同奨学会元監事の伊瀬芳吉様、2660地区バスターガバナーの武尾敬之助様、2660地区米山記念奨学会委員長の渡辺斌様、2660地区学友会担当委員の

平岡龍人様、2640地区米山記念奨学会元委員長の釜下保男様、2640地区米山記念奨学会委員長の永井孝弘様、韓国米山学友会会長（ソウル麻浦R.C.会員）の林隆義様、台湾米山学友会代表（台北東海R.C.会員）の楊承淑様、米山学友会（北関東）会長の司勤様が参加された。（以下敬称略）

シンポジウムは二部に分かれて行われ、第一部は「学友会の国際化について—文化交流と留学生の役割—」をテーマにして学友会（関西）副会長の梁官涑氏が基調報告

を行い、パネリストとして、林隆義氏、楊承淑氏、司 勤氏、学友会（関西）会長山岡由佳氏がディスカッションに加わり、学友会2650地区副会長の清河雅孝氏がコーディネーターとして、コメントを付け加えられた。第二部は「日本留学中に出会うさまざまな問題点」をテーマにして、学友会（関西）顧問林錫璋氏が基調報告を行い、パネリストとして、清河雅孝氏、梁官洙氏、学友会（関西）幹事文楚雄氏がディスカッションに加わり、学友会（関西）相談役の重光世洋氏がコーディネーターとしてコメントをされた。

### 第一部

#### 「学友会の国際交流について— 文化交流と留学生の役割—」

梁官洙氏は次のような基調報告をした。先ず国際化について。主体、内容、範囲、方向の四つの方面があると指摘。主体は、政府、団体、個人から構成されるが、中心は個人である。内容としては、総合体としての人間の生き方、考え方及び自然と社会とのトータルの文化であると考えている。

文化交流については、真の文化交流は個人、トータル性、グローバル化、双方性、多面性、相互理解の多方面にわたるものである。文化には代表文化、民衆文化、混合・複合文化があると指摘。

米山奨学生は95年5月現在42カ国、949人いる。累計で75カ国、10956人にも達している。これらの人材のネットワークを整備すれば、米山文化交流協会でも創立できるのではないかと指摘。また、日本在留中の奨学生の活動に対しては次のような提案をした。

ロータリークラブの月例会では十分間ほどの留学生の「Culture Talk」をしたらどうか。年二回ほど交流会を開いたらどうか。コンサート、展示会、各分野のシンポジウムなど米山国際文化祭でも行ったらどうか。

最後に、今の時代では人を中心とする「心のふれあい」「顔の見える交流」がもっとも重要だと指摘して、基調報告を終えた。

パネリストの林隆義氏（韓国米山学友会会長）は韓国学友会の活動について次のような報告をした。

自分は77年から78年に米山奨学生になり、

カウンセラーを始め、京都西南R.C.のロータリアンから大変お世話になった。そのときから韓国に帰ったら、自分も立派なロータリアンになって恩返ししようと思った。

1978年国際ロータリークラブ3650地区漢城R.C.に入会して、今年で18年を迎えようとしている。1988年スポンサーを受けて、今年で新しいクラブソウル麻浦クラブを結成して、その会長に就任した。1995年新麻浦クラブを結成した。1983年から青少年委員会、社会奉仕委員会を歴任し、1997年ガバナーに就任する予定である。また、1994年に国際ロータリークラブから奉仕賞を受賞した。

国際交流については、京都西南R.C.と漢城R.C.との姉妹クラブの締結や韓国と日本の青少年の交流などをした。また、カザフスタン共和国に白血病を研究・治療する病院を造る計画を立てている。カザフスタン共和国は旧ロシア連邦核実験の試験場だった。白血病患者がとても多い。病院を造って白血病患者を救いたい。

パネリストの楊承淑氏（台湾米山学友会代表）は、次のような報告をした。

台湾の米山奨学生は2083名がいる。そのうちの1113名が台湾に帰っているはずだが、また、十分に連絡をとっていないのが現状である。1994年6月、学友会OB連絡会及び懇親パーティーを開き、212名の学友及びその家族が参加した。日本からも106名のロータリアンなどが参加した。そのとき台湾教育部（日本の文部省にあたる）国際文教處というところから米山奨学会に功労賞を贈呈した。

学友会の今後の活動については次のように考えている。まず人材バンクを造り、学友の皆さんにロータリアンになってもらう。次に職業を通じて社会奉仕をしてもらう。たとえば専門家を集め、各分野の国際会議を開いたり、いろんな業界の人を集め、社会奉仕をしたりする。三つめは青少年中心の交流をやりたい。たとえば日本の青少年のホームステイを学友が受け入れる。さしあたりは学友の名簿を造らなければならない。学友のネットワークをつくって、たすけあいをしたり、情報交流をしたりする。また米山奨学会の最新情報をつねに台湾に伝えていく。日本にいる学友にも米山奨学会の正確な情報を提供してもらいたい。

楊さん自分が所属しているR.C.では会員48名のうち12名は日本留学経験者である。日本語は共通語となっている。

パネリストの司勤氏は、次のような報告をした。

学友会の活動としては、学友及びその家族で温泉旅行やバーベキュー大会や花火大会などを行った。伊豆半島を旅行したとき、米山の記念館を参観した。東京には近いが学友の皆さんはいつもさっさと行ってさっさと帰ってしまう。東京はよく見学していない。来年は東京見学旅行をする予定。

今後の仕事としては先ず名簿を作りたい。学友は就職したり、帰国したりしてなかなか連絡が取れない。それから会報も作りたい。

パネリストの山岡由佳氏は次のような報告をした。

学友会(関西)は今年で10周年を迎えたが、準備期間は2年もかかって、本当は12年になる。

学友会の活動としては、毎年、秋の懇親会を開き、学友及びその家族の親睦をはかってきた。学友会の会報は毎年出している。四地区に配っているほかに、台湾、韓国にも配っている。

今後の課題としては、やはり名簿を作ることである。住所不明や連絡が取れない場合が非常に多い。

## 第二部

### 「日本留学生に出会うさまざまな問題点」

林 錫璋

#### 一、本テーマを選んだ経緯

ロータリー米山奨学生学友会(関西)が創立してから、最早10年になりました。これを記念するために何かの行事を行おうと考え、シンポジウムでもやってみようか、という話が出て、幹事会全員一致の賛成で決定されました。しかし、テーマを決めるのに苦労しました。それぞれ専門が違うし、共通のテーマが良いにしても、国際親善や国際理解などあまり高尚なテーマにすると、興味がなく参加してもらえないか期待がもてそうもないではないか、という危惧がありました。考えに考え抜いてこのテーマに決まりました。留学中に誰もが必ず一度や二度出会うことのある身近な問題だし、本音を出し合って討論して、相互理解を深めることにも役立つのではない

かと思ったからであります。

#### 二、入国についての問題点

1 IMMIGRATION 外国から移住・移民という意味であるが、日本はこれを入国管理という。この用語から、入国を歓迎するよりも、これを管理・規制するような印象を受けます。狭い国ですから、これも仕方がないでしょう。

2 就学ビザ 留学するには就学ビザをとらなければならない。その前に受け入れ先の入学許可が必要となる。さらに、身元保証人を探さなければならない。保証書の内容は、往復旅費、日本滞在中一切の費用、日本の法律を守るなど三項目である。経済的保証ならともかく、他人が法を守ることを保証することは実に容易ではない。守らない場合はどのような責任をとらされるかについても明確でない。また、保証人にどれだけの収入があれば、保証能力があるかについても、はっきりしたガイドラインがない。したがって、日本へ留学するには相当なコネがないと非常に難しい。

3 観光ビザ 観光ビザで留学しにくるのは正道ではないが、入国してから受け入れ先をさがして、入学許可を得て就学する方法である。しかし、この方法でも、就学ビザに切り替えなければならない。そのため、もう一度出国して就学ビザを申請しなおす必要があるため、経済的負担は大きいばかりでなく、2で述べた問題にも直面する。

#### 三、勉学についての問題点

最近、各大学とも留学生の入試に英語を免除するケースが多い。それは、日本へ留学しに来るのだから、日本語でよいという発想である。しかし、これには問題がないわけではない。

1 英語の必修 英語無試験で入学したのに、入学したらカリキュラム上英語が必修になっているため、英語についていけない問題が発生する。

2 日本語必修 1の問題を解決するため、留学生だけ英語を日本語で読み替える。しかし、これによって、英語を勉強したい留学生は英語をとれない問題があり、さらに、外国書購読の科目には英語を履修した者に限るといった条件がついている科目については、

全くとれなくなる。

3 選択必修なのに選択権が剥奪されている。ある大学院は環太平洋経営学と称して、カリキュラムには英語、日本語、中国語、韓国語の外国文献研究の四科目から一つ選択必修となっている。しかし、留学生は必ず日本語をとらなければならない。そうすると、留学生は他の科目の選択権が事実上剥奪されたに等しい。留学生のために、日本語を設けてくださったのは有り難いが、設けたのだから必ず取れ、というのとは不合理ではないか。

4 第三国への留学 大学の中には在学中に外国への語学研修や留学を奨励する制度を設けている。これには、カリキュラムの一貫の制度で、外国の単位を30単位まで認めているし、在学しながら一年外国に留学するのですから、休学しなくてもよいし、外国での学費は大学が肩代わりしてくれる。この制度は文部省も奨励している。しかし、これには、外国人留学生は参加できない。理由は、日本へ留学しにきたのだから、ずっと日本にいるべきだ、という理由にある。しかし、大学の制度だから、留学生の権利のみを制限するのはいかなるものかと思う、イギリスのエセックス大学の学生が日本へ留学しに来た中にはいろいろな国籍をもつ学生がいたのは印象的でした。

#### 四、生活についての問題点

1 生活費 円高で国からの送金は目減りして厳しい状況におかれている。最近、日本国際教育協会、大阪府国際交流財団、大遊協国際交流・援助研究協会、アジア国際交流奨学財団、奥村奨学会などの団体からの奨学金があるが、月額4万円から7万円間の低額で、生活にはなお不足がちで、アルバイトを要する。アルバイトするには、入国管理局の許可を要し、週20時間ぐらいは認められるが、職種が限られ、全て認められるとは限りません。黙ってすれば不法就労となる。

2 賃貸マンション 外国人お断りというケースに合うことがある。理由は必ずしも差別とはいえないが、言葉が通じない、生活様式が違うことと、日本人は集团的民族なので対外警戒する習性からではないかと思えます。留学生会館を建てればよいというが、一ヶ所に集まって生活すると、いつまでたっても日

本語が上達しないし、日本の文化に接する機会が少なくなる。

3 病気、緊急時 身内の者が近くにいないので、助けを求めることができず、このような時は特に苦勞する。阪神大震災で被害に会われた留学生が一時帰国を余儀なくされたのも、このような理由によるものと思われる。

#### 五、就職についての問題点

1 国籍条項の問題 公務員、教員はほとんど日本国籍を条件にしているので、留学生は不可能である。一部地方役所にはその緩和が見られるが、それは定住外国人のみであるようです。

2 就職ビザの問題 昔は大学卒業しても、留学ビザから就職ビザに変更するのは困難であったが、難民認定法ができてから可能となった。しかし、まだいろいろと問題がある。たとえば、'95年8月4日の新聞に出たように、中国留学生である呉俊さんが、神戸大医療技術短期大看護学科卒業と同時に正看護国家試験に合格して、92年附属病院に採用されたが、研修生身分の医療ビザは発行されたものの、就労ビザには変更できず、在留期間の延長もないため、病院から退職届を出すよう催促された。

3 会社就職の問題点 採用に当たっては当人の専門を重視するよりも、自国の言語を利用することを重視する場合が多いようである。早い話だと通訳として使う場合が多いことである。本人は何のために日本へ留学しに来たかに疑問が残る。

4 現地日本企業の就職 卒業して帰国し、現地日本企業へ就職して留学の成果を発揮できたら、と思うが、現実では欧米の会社の方がましといわれる。日本企業は通訳的効果しかみないし、昇進も重用もされないからである。

#### 六、帰化についての問題点

1 帰化申請についての問題点 日本で帰化を申請する者は、概ね就職、昇進、結婚について差別されるのを恐れて申請される場合が多い。さらに、会社倒産や、交通事故の過失で刑事罰でもくわえば、余儀なく帰国させられてしまうからである。外国では公民権取得と称し、その取得方法や細かい条件のマニ

ユアルがあるのに対して、日本では全くその基準がなく、各自の模索にまかされている。言われるままに、多くの書類を出させられ、却下される場合もあり、許可されるまでには一年半かかる。帰化即ち同化ですから、権利として申請するようなものではないであろうか。

2 氏名変更についての問題 帰化ですから、氏名も日本人らしい氏名にしなければならないという。そのため、帰化後、いつも同一人であることを証明する書類を用意しなければならない。外国から旧氏名で送って来た書留をもらうため、身分証明書の提示を求められた時に、この問題が生ずる。日本人女性が結婚しても届出をしたくないいわゆる「事実婚」が多いのもその理由がここにある。

3 戸籍謄本についての問題点 差別を恐れて帰化された者は、ここに来て失望するであろう。戸籍謄本には永久に帰化事実が書かれ、それを調べればわかることになっている。最近、戸籍謄本の閲覧や提出を厳しく制限していることから、この問題やや改善されるが、まだ問題がないわけではない。

## 七、おわりに

その他、留学生に直面する問題点は多々あると思うが、以上、私が思いついた問題のみを取り上げてご紹介し、これに関連し、または皆様の中にも直接出会った問題があれば、出し合ってご討論いただければ幸いです。以上。

清河：身元保証人制度について、法律上でさえまた確実にされていないのに、留学生に追い付けるのはおかしいと思います。まだ、これについては、制度上の問題があるが、留学生自身にも問題があります。

学位については、日本では三回の改革を行いました。今の医学と理工系のほうは前よりだいぶ改善されていますが、文系の博士に対しては、成果をあげなければならないです。

梁：留学制度（特にアルバイトの時間制限）について、改善すべきです。これは私費留学生にとっては必要とともに、日本の中小企業の人手不足の解消にもつながります。ここで一つの提案として、

日本語の試験を英語のトフロのように外国で設けて、合格した学生に優遇することです。就職について、一部の自治体は日本に留学した人を積極的に採用していますが、日本は鎖国的な国ではないから、開国するためにもっとたくさんの外国人を採用したほうがいいのではないかと。

## 文：1 貧は諸行の妨げ

貧は諸行の妨げという言い方がある。日本に留学している留学生、特にアジア諸国から来た留学生にとっては、さまざまな問題の中にはまず貧の問題はもっとも重要な問題だと思う。物価の高い日本ではまずこの問題にぶつかる。留学生の悩みとか勉学のこととかトラブルとかすべてこの貧の問題に根源している。まずこの問題を解決しなければならないと思う。最近はいだいぶ改善されているようだ。一方、貧は幸福の神という言い方もある。

## 2 語学力と文化の理解

語学力が高ければ高いほど、日本の文化に対する理解が深まり、文化的な摩擦やトラブルが少なくなると思う。語学力が低いときは日本の文化に対する理解も低くなる。理解できなかつたり、特に中途半端に理解したりして摩擦やトラブルが起こりやすくなる。語学力と文化理解とは相関関係があると思う。

## 3 郷に入っては郷に従う

郷に入っては郷に従うという言葉のように基本的にこの姿勢が必要であると思う。郷に入るが郷には従わないという姿勢を取ったら、摩擦やトラブルが起こりやすい。

## 4 悪く思えば、ますます悪くなる

留学中にさまざまな問題に出会い、時には摩擦やトラブルも起こる。それらの問題を悪く思えば、ますます悪いようになる。困難や苦しみのときには悪い方向に思わない方がいいだろう。神様は均等に人にチャンスを与えていると思う。それを捕まえるか捕まえないかの差である。

また、奨学生選考についての質疑に対して、





## 出会い

第2680地区 姫路南RC

姜 承 希

(独協大学)

この世に生まれたことは出会いの始まりで、人は生きていながら様々な別れに出会います。赤ちゃんの時、お母さんの姿が見えないことを恐れた子供が、視線の別れに慣れると、今度はお母さんの長い留守に大声を出して泣いたりします。そして、クラスわけで、仲の良い友達と離れねばならない辛い経験などを経て、大人になっていきます。それが人の自然な生い立ちといえるでしょう。

20代によく見られる「失恋」は、別れのパターンのひとつで、東西を問わず映画の主題として愛用されています。単に映画だけでなく、多くの芸術作品も別れの人間の心を美しく描いてきました。人によって多少違いはありますが、ある年代になりますと、自分の親しかった人と死に別れるし、いつかはおのずとこの世に別れを告げる日を迎えます。このように人生はまさに別れの繰り返しです。言い換えれば、出会いには別れが付きまとうもので、人生は出会いの繰り返しでもあるわけです。

よくよく考えてみますと私の場合、心の奥に残しておきたい思い出が生み出されたきっかけは、出会いが作ってくれたような気がします。時には出会いを意識しながら、結局のところ選ばれたのは探し求めた出会いでした。そして、今までの出会いの中で、もっとも印象深かったものは「日本語との出会い」でした。思うに、日本語は私に貴重な場を与え、いつも心をときめかし、勇気付けてくれた大事な存在でした。

異国の空の下で、無性に寂しさを感じ、もがきにもがいても答えの出ない日々を一緒に過ごしてもらった「日本語」。その日本語のおかげで、多くの日本人と知り合い、また日本の文化になじむこともできました。しかし、5年間の留學生活のアルバムにサヨナラを添える日が近づいてきますと、今まで当たり前にしたことに、特別な感情が

持たれ、とめどなく切ない気持ちになってしまいます。複雑で、ことばではうまく説明しがたいですが、全身に湧き出る熱い思いが涙を誘い、胸の奥を横切っているようです。

残念なことに、出会いに別れは付きもの。ある詩人が「別れは出会いのはじまり」と語ったように、辛い別れのトンネルを走り抜けると、きっと新たな出会いが待っているはず。そのことを自分に言い聞かせながら、素敵な「出会い」に、ふさわしい素敵な「わかれ」を飾りたいものです。なぜなら、素晴らしい「別れ」のために暮らしを磨き、訪れる「出会い」を生かして育てることで、人生は潤いを保てると信じていますので。

米山奨学会はロータリークラブの国際親善という趣旨の下で設けられ「出会いと交流」の掛け橋として、立派な成果を上げてきたと思います。ロータリー米山奨学生学友会の活動が真の国際化に一役買っていることを考えると、その期待はさらに高まるでしょう。

ロータリー米山奨学生学友会（関西）が、今年で創立10周年を迎えたことに、お祝いと喜びの拍手をお送り致します。そして、学友会のひとりとして、今後、益々の御発展が続くよう、心から応援致します。最後に、2年間お世話になりました「姫路南ロータリークラブ」の会員皆さんに感謝のお礼を申し上げます。特に、カウンセラーの北村さんには色々な面倒を見ていただき、この紙面をお借りして厚く感謝の気持ちをお伝えします。

ロータリークラブとの出会いは本当に素敵でした。地球のどこかで「めぐり会える日」を楽しみにしています。



## 今になって思うこと

第2680地区 神戸須磨RC

李 純 止

(神戸大学)

日本に来てから4年6カ月の歳月が流れた。日本での思い出について、何か書こうと思って、いろいろと考えた結果、今身に沁みて感じていることを書くことにした。それは日本文化への思いから感じたことです。

日本文化と言えば、生け花やお茶道などが留学生なら誰でも、思い浮かんでくる。しかし、それらの文化と接触しようと思っても、日本に来てからとって、そう簡単ではない。まず、経済的な問題や時間の問題があるし、そもそも何処へ行けばよいかすらわからない。私自身の経験としては、最初の二年、いつももう少し日本語が上手になってからと言いつつ、何もできなかった。そして、三年目の時、修士論文で忙しかったのは事実。気分転換に日本の文化を学ぼうとの思いもまた、時間とともに流れてしまった。それから、去年は、奨学金なしの生活に苦しんでいて、コーヒー一杯の余裕さえできなかった。そんな有り様では、日本文化になんて誰が関心を持ってもらえるの？バイトが忙しくて無料にしてもらっても行けないわ、さえ思うのである。とにかく、知らず知らずのうちに四年経ってしまった。日本文化については何一つ身につけることができなかった。やっと米山奨学金をもらって、経済的な問題が解消された五年目の今でも日本文化との接触ができない。博士論文に取り組んでいるからである。人生ってうまくいかないものね、と思うと悔しくて仕方がないが、自分のせいにするほかない。何事でも積極的にしようと思えばできるはず。今のうちしかできないと思って、頑張ることが一番基本的で重要な考え方ではないか。もし最初から、日本に長く滞在しないつもりでいたら、もっと積極的にいろんなことに挑戦できたかなと、今つくづく思っている。延び延びになってしまうかどうかは、自分次第である。

恥ずかしい話であるが、それは今になってこそ思うようになったことである。

これからは、時間がなくても、何かささやかなことでも身につけて、日本での最後の思い出を一生懸命作り出したいとおもっている。今、時間がある時、知人に日本料理をいくつか教えてもらったり、相撲の本を読んだりしている。あるいは、日本的なことではなくても、日本にいる間、学生でも学習できることなら、何でも良からう。今すぐ思いつくことが沢山ある。もちろん、やりたいこととやれることは同じではないが、とりあえずやれることから始めようとおもっている。例えば、論文を書いている時に体力が必要なので、何かスポーツでも始めようと思ひ、私は水泳に挑戦した。何か一人でやれるスポーツで、自分の時間と合わせやすいものをと考えて、それに決めたのである。

本当に、勉強ばかりする日常生活の中に、思い切って何か始めようとするともいい気分になれるものだ。ほかの留学生にも「今のうちしかできないと思って、頑張るの」と勧めたい。例えいろんな問題があるとしても、それを乗り越えてくださいね。せっかく日本に来ているのだから。



## 中国における医療の現状について

第2680地区 神戸六甲RC

劉 振 軍

(神戸大学)



ご存じの通り、中国は13億の人口を持ち、5千年の歴史のある国であります。長い歴史の中で中国の医学が生まれ、そしてつい150年前から西洋医学の進出により系統的な基礎医学システムと臨床医療システムができ上がりつつあります。近年の開放改革政策の実行に伴い医療環境の改善も著しく、国民の健康状況も向上しつつあるのは事実であります。

中国における医療の実態：

中国の医療システムから見れば大きく西洋医学医療と漢方医学（中医）の二つのシステムに分けられます。医者数、病院の数から見れば西洋医学は全体の80%を、漢方医学は全体の20%を占めています。もちろん、西洋医学の病院、大学があれば漢方医学の病院、大学いわゆる中医院、中医学院もあります。

文革毛沢東時代に西洋医学と漢方医学とを結び付ける医療手段、すなわち西洋医学の理論と観点で病気を分析医療と、漢方医学で補う医療システムが提唱されました。従って、その時から西洋医学の病院には中医科（東洋医学科）を設け、また一般の西洋医の約半数近くは漢方医学の知識を持つようになりました。今になっても、西洋医学を学ぶ医学生は60時間あまりの中医学の授業を受けなければならないのです。

中国の医療行政組織：

中国には衛生部、各省、市の衛生庁、局に属する行政官僚もあればそれらの管理の下で直接患者に接し、13億の国民を病気から守る役割をしている各種の病院、医者もあります。中国の医療事業は今まで社会福祉としてきましたが、経済開放の今においては、物価、人件費の上昇とほとんど増加しない自治体からの病院運営費とのバランスは崩れかけて、病院の運営は悪化しているのが現状であり、その基層医療は患者総数の95%を受け入れ最も精力的に中国の医

療事業に尽力する部分であります。これより上の部分は研究を目的で国、自治体、外国から豊富な資金を与えられますが、それに対して、基層医療は外国からの援助もないし、自治体からの運営金も少なく、設備なしあるいは数十年前の古い設備で国民の健康を守っています。一方、村、企業の医務室、郷鎮病院のような下層病院はこれらの患者の医療を担っていることになりましたが、設備、医薬の欠乏、医療環境、医療状況の悪化で正確で満足できる診断と医療はほとんどできない状態であります。

個人開業はつい4、5年前から出てきたばかりで、数はそれほど多くありません。都市では公費医療が適用しないので、そのこれからの発展が制限されていることか考えられます。

毛沢東時代には医者不足の解消策として農民の青年を集め、2、3カ月の集中訓練を受けさせ、村の医療を担当させることがありました。これらの青年は村の農民と同じような農事をしながら医療活動を従事するため、裸足の医者と呼ばれていました。今はこの制度はすでに中止となり、これらの人は農民に戻るか、村の医務室で仕事するか、あるいは農村の個人開業医として引き続き医療に従事しているのであります。

漢方医療行政は中央政府衛生部の中医中薬管理局により管理されています。各省、市に中医病院が設立されています。一般総合病院にも中医科としんきゅう科が設立されています。各省に漢方医学の大学…中医学院が設けられています。その卒業生はこれらの病院に配属されています。漢方医は半数以上西洋医学が分からなく、その中に正規の医学教育を経ず独学あるいは経験で治療を行う医者は多くいるようです。

中国の医療保険制度：

中国には日本のような医療保険制度がありません。その代わりに公費医療と言うもの

があります。公費医療は約20%の人しか享受しないのであります。

公費医療の1割と2割は十年前において、同じように国が負担したが、経済開放に従って、損益の企業責任制が導入され企業負担となり、経営状況により完全に負担したくない企業も多く存在するそうであります。原則として企業が90%を負担することになっています。ですから、実際に、20%の人しか公費医療を享受していないのであり、残り中国人口の8割を占める農民とその家



「国の予算」や「国籍」等の表現を使うとき、または「国際交流」や「国際空港」の場合「国際」という今日ありふれた表現を使うときも我々は自信をもって「国」という語を使う。全人類に「国」の意味が分かるからである。でなければ「国連」という組織は存在しえなかったのではないかと思われる。しかし本当にどの「国」においても「国」の意味が同じなのであろうか。

現代人が「国」という言葉を口にするとほとんどの場合、国連にふさわしい現代的な国民国家を想像してしまう。ところがこの「国民国家」というのは唯々二百年ぐらいの歴史しかもたぬ。つまり産業革命までは存在しなかったのである。にも関わらず、「国」は自然で人類の発祥と同時に成立した、と思われがちである。国籍も生まれ付きのものともみなされ、地球の上に「国籍」をもたない人は想像しがたく、親に捨てられた悲惨な子供達以外はほとんど耳にしない。

「民主主義」も同様である。民主主義国家の国民であれば、世界中の民主主義国家の国民と何か具体的なものを共有しているように思われている。西洋の雑誌はしばしばそれぞれ国の民主主義の度合いをあらわす世界地図を掲載する。要するに「民主主義」はそこにあって、計ることのできるものなのである。

族、都市の無職者、上記の公費医療を享受する人の家族などは私費であります。現在の中国の経済状況から見ると、自費で医療を受ける人にとっては病気＝破産と言っても言い過ぎではないでしょう。たとえ急性虫垂炎のようなごく一般的な病気でも手術料、薬代、看護料、入院料、等の諸費用をあわせると簡単に年収を越える金額になります。ですから、農村では有病不治、即ち病気にかかっても治療を受けようとしぬ現象が再び見られるのであります。

## 国籍と国について

第2660地区 大阪中央RC

アドキンズ、マシュー・テイモシー・A

(大阪大学)

確かに共通点は多い。しかし私は人生のほぼすべてをイギリス、アメリカ、日本という三つの違った民主主義国民国家で過ごしてきたが、三つとも国の歴史と世界観によって「民主主義」と「国家」に対する態度は異なる。

これらのちがいの多くは「民主主義」の歴史の考え方からきているように見える。イギリスもアメリカも自分のことを現代民主主義の出発点とみなしている。アメリカはもちろんギリシャを民主主義の先駆者として認め、18世紀のヨーロッパの思想的影響もみとめてはいるものの、やはり現在の民主主義を考えると他国の影響を考えていない様である。イギリスもイギリスの自由を13世紀のマグナカルタ（大憲章）まで遡っている。外国の影響をほとんど認識していない。しかし日本の場合民主主義を語る時やはりアメリカ型民主主義とイギリス型民主主義を比較した後、日本の民主主義は部分的に両国の制度からできているという。それぞれの立場によって異なった自己意識が生まれてくるのは言うまでもない。また「国籍」に対する意識がちがうのも当然であろう。

アメリカは割と国籍を取りやすい国だが、アメリカ人が他国の国籍を取った場合、その場でアメリカの国籍を失う。日本は非常に

国籍が取りにくい、別の国籍を取ったら、二度と日本人にはなれないようである。イギリスは相当国籍が取りにくい、イギリス人として生まれるとその国籍を捨てるのがほとんど不可能に等しい。

私はイギリス生まれで、23歳の時アメリカの国籍を取った。この作文の上にどちらの国籍が書かれるのか分からない。留学のビザ



マレーシアは1957年独立当時、イギリスから受け継いだ経済構造は典型的な植民地経済（モノカルチュア済）であった。当時、西マレーシア輸出品は主にスズと天然ゴムで、東マレーシアのサバとサラワクの二つの州の輸出品は木材、石油、コショウなどの特定品種で占めていた。こうして、マレーシアの経済は、世界需要とか、価格変動などの外来要因に強い影響を受けやすい経済構造となっていた。一次産品の中、特にスズと天然ゴムが一番影響を受けやすいのである。

旧宗主国イギリスから独立後、マレーシア政府の経済政策は、農業の多様化と共に、特定の地域の工業化への転換が重要視された。長年にわたって形成させてきた特定の一次産品に依存する輸出経済構造を終了させたいのである。農業国から工業国への転換はマレーシアの最重要課題である。この工業化という目標を達成するには、資本、そして技術が不可欠である。マレーシアは両方とも欠けていて、これを補うために外国資本の導入という方法を選んだ。この中で特に日本企業の直接投資の受け入れが盛んである。

近年、マレーシア経済は速いスピードで拡大している。経済成長率は年平均8%である。さらに、国内総生産に占める製造業部門のシェアは、1985年を境に農業部門を超えたのである。さらに中身を探ると、言うまでもなく日系企業が非常に重要な役割を演じているからである。

がついているのはアメリカのパスポートなので、恐らく「アメリカ」と書いてあるだろう。

「国」と言うものは興味深くて、大事な研究対象であることも間違いない。しかしなにげなく海外へいくときも、真剣に研究するときも「国家」は人間の創ったものだということをおぼえてはいけない。

## マレーシアと日本の経済関係

第2660地区 大阪住之江RC

周 人 英

(大阪市立大学)

日本がマレーシアにとって最大の貿易相手国であり、日本へ主に石油、ゴム、パームオイル (palm oil)、木材 (saw ogs)などを輸出している。日本からは主に機械と自動車、化学製品などを輸入している。貿易額では、日本がマレーシアの輸出と輸入、それぞれの2割、3割を占めている。さらに、マレーシアにおける外国直接投資額からみても、日本が最大の投資国であり、投資は特に製造業の電器・電子分野に集中している。93年のデータより、マレーシア直接投資受け入れ件数の3割が日本であり、そして日本の直接投資の132件のうち、電器・電子分野は約半分の67件を占めている。現在、マレーシアに1,000を超える日系企業や、合弁企業が活動している。そして近年、マレーシアが世界有数のエアコン、テレビの輸出大国として急成長してきた。これは日本がマレーシアの経済発展に大いに協力した成果である。

経済大国といわれる日本は、発展途上国の経済建設を助け、世界経済繁栄のために、積極的な役割を果たさなければならない。いままで日本と発展途上国との関係は主に経済協力を中心に築いてきた。これから、経済面だけでなく、文化交流の分野においても密接にならなければならない。なぜなら、世界各国が友好的な関係を保ちながら、貿易と文化交流をおし進めてゆけば、平和な世界を建設することに貢献して行くだろう。そうすれば、最後に、本当の世界の経済発展にもつながるからと考える。



## インドネシア人と日本人の宗教観

第2660地区 大阪天満橋RC

ステイアデイ、ユリウス・ユリアント

(大阪大学)

わたしの母国であるインドネシアは信仰の厚い国であり、90%以上の人口は回教徒で、残りの10%弱の人口はキリスト教を始め、仏教そしてヒンズー教を信仰している。マラカ海峽に隣接する西インドネシアは昔から貿易の盛んな領域であり、そのためにインドネシア人は昔からインドやヨーロッパなどの商売人たちと交流を持っていた。貿易交流を通じて文化の交流も自然に行われるようになり、やがて宗教までも伝達されるようになった。こうしてヒンズー教を始め、仏教、キリスト教、そしてイスラム教はインドネシアに次々と広まるようになり、インドネシア人の信仰が時代の流れによって次第に変わっていった。

こうして日本にもインドネシアと同様、仏教やキリスト教のような外国からの宗教が入るようになったと思われる。日本には日本固有の自然宗教である神道がある。神道という神は無数にあり、初めは自然物や自然現象を神としていた。そして次第に先祖を祭るようになった。したがって神道には特定の教祖なく、教典もない。この多信教である神道のため日本人は外国から入って来た宗教に寛容であり、同時に複数の宗教とつながりがあっても不思議と思わない。ここは日本人とインドネシア人の宗教観の違いであると思う。インドネシアにも生活体験から生まれ育った原始時代からの自然宗教がある。しかし外国の影響の方が強過ぎたためか、この多神教が今ではほとんど残っていない。

どうしてインドネシア人と日本人は同じ外国由来の宗教に対し違った反応を示していたのか、その理由は4つあると思う。

1つ目は、日本とインドネシアの国民性あるいは民族性の違いのためである。もともとインドネシア人と日本人はちがう民族であり、したがって文化や習慣や考え方がちがう。これによって、外国から入って

きた宗教に対する対応の仕方も違って来る。

2つ目は日本はインドネシアとちがって地理的に他の国から孤立されていたため、昔から外国人との交流は限られていた。つまり日本はインドネシアより外国からの影響を受けにくかったのである。こういった状況の中で日本人は独自文化を作り上げることが出来た。宗教に関しても同じことが言えると思う。日本人は外国からの宗教を独自の方法で自分の文化に取り入れたのである。

3つ目は、日本人は昔から高いレベルの独自文化を持っているため、宗教を含む外国の文化は受け入れにくかったのである。例えばお酒や豚肉の飲食を禁止するイスラム教は日本に入ってきて来れないのである。

4つ目は、インドネシア人と違って日本人は宗教の必要性を感じなく、単なる宗教に無関心なのである。統計によると、特定の宗教を熱心に信仰している日本人は少なく、宗教に無関心と自らいう人が多い。日本人は美しい自然と恵まれた四季の中で、外敵の侵入も極端な天災もなく、のんびりと何世代にも渡って過ごしてきたため、宗教を熱心に求める気風が出来なかったかもしれない。

宗教というのは文化の一部であり、外国から外の文化と同様に日本人とインドネシア人は自分の生活に合った宗教を自分の文化に取り入れた。したがって日本人とインドネシア人の宗教観の違いというのは単なる文化の違いを反映しているのかもしれない。





## 日本留学に思うこと

第2650地区 福井RC

馬 石 平

(福井大学)

わたしは中国の蘇州から参りました留学生です。昨年の四月からホストクラブの福井ロータリークラブでお世話になっております。わたしの留學生活の一番辛い時期に米山奨学金に恵まれ、博士課程の二年目からはカウンセラーやホストクラブを始めロータリアンの皆様からの暖かいご支援とご指導に支えられながら勉強生活を続けてきました。この場をお借りいたしまして、厚くお礼を申しあげたいと思います。

来日前に中国の大学で講師として七年間仕事してきました。その後、三歳の子どもを親に預けて日本に留學することを決意したのは大学時代から日本と日本文化に非常に興味を持ち、日本へ留學する夢があったからです。来日してから、三年も経ちましたが、この三年間いろいろな人と出会い、楽しいことも辛いことも多く経験しました。ここに私の留學生活で一番思ったこと、考えたことを申し上げたいと思います。

### 異文化を認識することは留學で 得られた一番貴重なもの

留學して専門分野の研究を深めることができたのはありがたいと思うと同時に、異文化に接するチャンスが与えられ、自分や自国への再認識ができたことはもっとも貴重なものだと思います。

初めて日本に来た時、道路や店の看板に漢字がところどころに見えるので、外国に在るような感じがあまり致しませんでした。日本文化は遣隋使、遣唐使に象徴されるように中国の文化を吸収して、漢字を基盤にする今日の文化を築いてきました。その意味で中国と日本の文化は切っても切れない関係にあるのは言うまでもないことと思います。しかし実際、毎日の生活での実感では、中国と日本は漢字を共有するが、国民の考え方や性格が根本的には違うところが多いようです。

私は化学を勉強してしますが、中国語や日本語で論文やレポートを書く場合、物質名やいろいろの化学用語を訳さなければなりません。日本ではこのような用語は英語をそのまま使うか発音でカタカナにして使います。ある日、私の指導先生からポリエチレン、ポリエステルのような化学用語は中国語ではどう書きますかと聞かれましたので、私はそれに対応している漢字を書いて先生に見せました。例えばポリエチレンは中国語では“聚乙烯”に訳され、“聚”は多くの小さい分子の集合の意味です。複雑な化学物質の名称の付け方などは漢字に翻訳するのはなかなか大変だねと先生は言いました。中国では化学の用語は少ない例外を除くと、そのほとんどはその意味を考えて漢字に訳します。このような化学用語に使う漢字は難しい上に日常ではあまり用いられません。このような難しい漢字に訳するのは英語をそのまま使うより随分時間がかかると思います。現在あらゆるところで使われているカタカナ英語に象徴されるように、西洋文明を取り入れる時には、日本はその速さを優先に考えるのに対して、中国は速度よりも自分の文化との調和性を優先に考えます。どちらが良いかは一概には言えないが、ここから国民の性格の違いがうかがえると思います。

このように中国と日本の国民性の違いは日常生活のあらゆるところでうかがえますが、その違いを十分に理解して、中国人としての自分の考え方や行動の枠組みへの再認識ができることはこれからの人生に大きなプラスになるものと信じています。

### 日本への理解を深めるには たゆまない努力が必要

初めて日本に来た人は日本人を誤解したり誤解されたりすることがよくあります。例えば、優しい人と付き合うことができた

人は日本人が優しい、あまり外国人に親しみを持たない人にあつたら、日本人が親切でないと自分の経験で判断してしまうことはしばしばあります。このように始めから日本人を誤解すると、その後日本にいても日本社会に接することなく留学生の社会だけで留学生生活を続けていく人もいます。

私は日本にいる留学生は日本への理解を深めるにはたゆまなく努力する必要があると考えています。初めのうちお互いに誤解されることがあっても、自信を失うことなく、積極的に日本社会と接するチャンスを見つけ、日本人と付き合えば、その中から日本人への理解が深められることができると思います。例えば、日本人は同一文化を共有するため、ちょっとした言葉使いの違いで相手の気持ちが分かるので、物事をあまりはっきり言わない習慣があります。はじめに日本人と付き合う場合、このような言い方にやや抵抗感を覚える人がいます。しかし、長く日本人と付き合っているうちにこのような言葉遣いにも日本人の人に傷をつけないような優しい心が感じられるようになって



日本の歴史を勉強するため、台湾の歴史に興味を持ち、ついに、台湾語と日本語との関係について研究を始めた。

現在の台湾では、55才以上の人達は、日本語がべらべらであるが、なぜそんなふうになったか。台湾の歴史を見れば、すぐ分かると思う。第2次世界大戦前、台湾は日本に統治されていて、台湾人は日本教育を受けさせられ、日常生活には日本語を使っていた。戦後、台湾は中国に返還されたので、日本語を使う事が禁止され、皆中国語(北京語)と台湾語(閩南語)を一生懸命勉強した。学校では中国語の教育を受け、家では台湾語を使う。こういう環境の中で成長して来た台湾人は家で使う日常生活用語の中に出て来る日本語を、だれも日本語だと

て、逆にそれに感心する人もいます。このように留学生の日本人に対する認識はたゆまぬ努力によって誤解から始まって理解に変わるようなパターンが多いと思います。

#### 異文化の共存に留学生が果たすべき役割

世紀末を迎える今、世界は冷戦時代の終わりを告げました。一方、国際交流がますます盛んになるにつれて、世界は段々狭くなりました。これからの世界では異なる文化や宗教が相剋摩擦する時代になるでしょう。しかし、それは民族や国家間の対立や断絶を生むものではなく、共存と交流をもたらすものではなくてはなりません。このような交流は互いに異なる文化への理解とその文化を愛する気持ちが必要になります。留学生は両国の文化に育てられたもので、このような気持ちをいつも心の中で持たなければならぬと思います。この意味では、異文化に対して理解と愛の気持ちを持って、その文化の共存のために力を尽くすことはこれからの国際社会における留学生の果たすべき役割ではないかと思ひます。

## 台湾

第2650地区 桜井RC

許 雅 婷

(天理大学)

思わず、自然に台湾語の一部として理解していた。もちろん字はないが、言葉だけで意味が通じる。これは、たぶん日本語教育を受けた人達に影響されたと思う。

又、第二次世界大戦が終わってから、いろんな日本企業が台湾へ進出し、日常生活の中には日本と関係のある事が多くなった。日本語の中の外来語みたいに、台湾語にはたくさんの日本語が取り入れられた。しかし、台湾人が使っている日本語と日本人が使っている日本語は、すべて意味が同じとは言えない。例えば、日本語としてではなく、台湾語となっている言葉は：

1. 「きーもー」：「気持ち」から省略した言葉で、よく使われている。「起毛」という中国語で書かれるケースが多い

2. 「あたまコングリー」：これは、とても面白い組み合わせの言葉である。若い人達によく使われる言葉で、頭が硬くて、頑固の意味である。

3. 「まんが」：「漫画」のことであるが、台湾語では、「まんが」のことを「いいかげんな事を言っている」、「めちゃくちゃの事を言うな」の意味に使われている。

4. 「おばさん」：日常生活の中には、よく使われている。又、「あさん」とも言うが、自分の親と同じ年輩の人に気軽に使われ、「欧巴桑」という文字で書かれて、「お手伝いさん」、「家政婦」の事をも指す。

5. 「おせ」：お歳暮から来た言葉で、年末に限らず贈り物をするという。「賄賂」をするの意味である。

6. 「ノーシン」：日本の頭痛薬から来た言葉で、むこうでは頭が少しおかしいという意味を表している。

7. 「あさり」：「あっさり」の省略で、「あさり」となったが、人の性格が良くて、明るい、潔いとの意味である。中国語では「阿沙

力」と書かれている。

以上、7つの言葉は台湾人の日常生活の中に、ごく一般的に使われている日本語である。

今、台湾の食文化にも、日本の影響が見られ、台湾製の日本語もたくさんある。例えば、日本語の「烏龍茶」「ウーロン茶」の烏龍は、台湾では「うどん」の事である。「鍋焼きうどん」は「鍋焼烏龍」と書かれている。台湾人の大好物「甜不辣」という食べ物は、言葉通りに、甘くて辛くないという意味である。だが、実際食べてみると大根、かまぼこ、こんにゃく、揚げ豆腐なども一緒に入った煮物で、いわゆる日本の「おでん」の事である。たぶん「甜不辣」の発音は日本語の「てんぷら」と似ているせいで、台湾人はそれを日本料理の「てんぷら」と同じと思う人が多い。

台湾の「言語文化」は本当に面白くて、複雑だと思う。日本文化を研究している私は、自分の国、台湾の歴史、文化なども勉強しなければならないと思う。これからも、台湾語と日本語の研究をつづけたいと思っている。



## 外国で初めて体験する母国への思い

第2650地区 京都西南RC

金 翰 泰

(京都大学)

まだ韓国で勉強していたころ、私は先輩や先生から外国へ出て生活してみると、本当の自国への愛が学べると聴いていた。

それが日本での生活によりやく慣れてきて少し余裕が出てきた2年目のある日、下宿先にかかってきた一本の電話が、先輩からの話を実際身に体験させてくれることになった。

その電話は知人からの観光ガイドの依頼の電話だった。その時期はまだ生活費に苦労していたころで私は詳しく聞きもせず喜んで引き受けた。

翌日約束のホテルへ行くと、そのガイドする相手は観光客でなく、取材を目的に京都に来た新聞記者で、彼は9 C. 韓国の昔、新羅時代有名で活躍した張寶庫という将軍に関連のあるものを探し、それを取材して

帰る目的だった。

それで私達は比叡山の円仁上人を、それから赤山禅院を取材しにいった。

彼の話によると、円仁上人が中国へ修行に行ったとき、張寶庫将軍と出会い、日本に帰る船の手配やその他色々なことで張将軍の世話になったそう。そこで円仁上人は日本に帰って来ると将軍への心からの感謝の気持ちで赤山禅院を建てたという話だった。

私はその話を聴いて、先祖への尊敬の気持ちと先祖が自慢に思える気持ちに満ちた。そして、そこで私の自国への愛が芽生え始めた。

それがきっかけで私の留学生活に、もう一つの楽しみが加わった。時間がある週末には日本にある韓国を探し始めたのだ。

私はその話を友達に打ち明けると、何人かの友達が同じく意見を合わせてくれて、私達はその第一歩として新聞を見て知った同志社大学構内にある韓国の民族詩人—尹東柱の詩碑を訪問した。二つの言語で書かれていた彼の詩を読みながら、激動の時代の流れを肌で感じた。

その話は留学生の中に広まって行って同じ考えを持った学生たちが集まって小さな友の会が出来た。集まりの回数が増えていくにつれて会員数も増えてきて、苦しい学校



私はマレーシアから来ました。マレーシアと日本との一番の違いは、マレーシアは一年中夏の国です。ですから生物をあまり食べない、着る物も簡単で用が足りる、という日本とは違った生活の様式が生まれて来ます。また、マレーシアは複合民族国家です。私は幼い頃から周りに中国人、マレー人、インド人というようにいろいろな民族がいます。彼らはそれぞれの母国語を話し、それぞれ違った習慣で生活しています。私はいわゆる単一民族国家のことを知りませんでした。ですから、気候のことを含めて、日本に来た時は驚きました。別世界に来たとはこのことでしょうか。

私は音楽の勉強をしに日本に来ました。音楽の勉強なら、なぜヨーロッパへ行かないとよく聞かれます。私は当初クラシック音楽について勉強しようと思って日本に来たのではありません。私が勉強したかったのは、シンセサイザーやキーボードなどを使ったポップス音楽です。それなら電子楽器は日本の得意とする分野ですので、日本に来ようと思ったわけです。これは日本に来る前の私が日本に抱いていたイメージと大きく関連しています。

少し前までのマレーシアでは、一般の家庭で使われる電気製品、楽器などは、すべて日本の製品でした。ですから日本を良く知ら

生活にも今まで続けることができた。

私達の日本に生きている韓国を探す旅はまだ始まったばかりだ。この旅によって長い留學生活のために母国から離れた精神を取り戻し、さらに深く母国を愛する心を得ることができると思う。そしてまだ小さい会だが留學生活が続く限り母国を愛する心も大きくなっていくだろう。また私達が国へ帰っても後輩達が跡を継ぎこの旅を続けてくれるだろう。

## 日本と私とマレーシア

第2650地区 京都洛南RC

陳 重 仁

(京都教育大学)

ない東南アジアのひとつとは、日本を単なる科学技術の先進国、経済大国と思いがちです。私もその一人でした。先進国の日本を見ようと表日本に来た私は、日本はただ高層ビルばかり並んでいる国ではないことを思い知りました。都市の中に古い寺や神社が至るところで見られます。ひとつとは礼儀作法を重んじ、なによりも自分の文化と日本の季節や風土を愛していると見受けられます。文芸や学術に従事する人は数え切れないほどいますし、学術の研究はすでに長い歴史を持っています。私は日本の歴史と文化の重みを感じました。

日本の経済はその文化を土台にして発展してきたものだと思います。日本に来ることによって、私は自分の国がよりはっきり見えるようになった気がします。マレーシアはまだ建国三十数年の国です。先進国入りを目指して、マレーシアの経済は今大きな発展を遂げようとしています。そのためにすぐれた技術者や専門家が必要であることは言うまでもありません。しかしこの発展と同時に、この国の精神的支えをより頑丈にすることに従事する人も必要です。それが現在私が日本で音楽教育と作曲について勉強していることの原因でもあります。



## 私の人生の4分の1の日本

第2650地区 奈良西RC

シアン, ジョン・パトリック

(天理大学)

日本へ来て5年と8カ月の年月が立ち、それを振り返って見ました。高校生の頃、オーストラリアの観光地のゴールド・コーストという所に住んでいました。そのとき、ゴールド・コーストに日本人が観光でよくやって来て、私の町が日本人だらけになって、オーストラリア人の僕はオーストラリアに住んでいるのにもかかわらず日本に住んでいる様な気がしていました。その気持ちが僕の心の中に常にあり、本当の日本と日本人、そして日本の文化というものを知りたくなりました。それから、高校卒業後一年間、僕はアルバイトにアルバイトをかさね、お金を溜めて日本に来ました。しかし、日本に来た僕を待っていたのは日本人の外国人に対する偏見でした。

まず第一に就職は、僕がしたいと思っている仕事には全然就けず、面接に行っては断られるばかりでした。その上、歩いている人でさえ僕のことを珍しいものでも見たようでした。それから何ヵ月間かすぎ、漸く飲み屋のアルバイトを見つけました。そこでのアルバイトは大変きつく、大変な毎日が続きました。しかし、そこで出会った日本人は僕の思っていたやさしい日本人と

同じ人たちだったのです。あれからの僕は毎日が楽しく日本語や日本の文化について勉強しながら、充実した日々を送っていました。ある日、アルバイトで知り合った友達が僕に、日本は学歴社会だから君も勉強する気があるならば、大学へ行った方が良いと勧めてくれました。どうせ大学に行くならば、日本語を勉強できるところが良いと思い、天理大学の国際文化学部日本学科に入学することに決めました。しかし、アルバイトをしながらの学生生活はきつく、アルバイトも飲み屋から英会話の教師へと変わって行ったのですが、日本の物価は高く、到底生活は楽になりませんでした。ある日また、大学のキャンパスを歩いていると、大学の職員の方が僕に「君は奨学金をもらっているの？」と話しかけ、僕は初めて奨学金のことを知りました。奨学金制度は私のような異文化を勉強したいが金銭的に大変な人にとっては最高の制度です。私はこの制度のお陰でこの3月で卒業します。私が受けた恩恵は社会人になって、返して行きたいと思っています。本当に長い間、私みたいな者に貴重なお金を援助して下さるロータリークラブの方々には、本当に感謝しています。ありがとうございました。



## 国際化の大阪を創りましょう

第2640地区 河内長野RC

林 淑 芬

(大阪府立大学)

日本国内で「国際化」しようとする活動、「国際人」になろうとする活動が盛んに行われています。いろいろな人々が、この呼びかけに心を込めながら全力を尽くしています。例えば、ロータリークラブ・青年会などのような民間の方々は、長い間ずっと外国人と交流しつづけています。外国人と友達

になろうと努力しているのに、なかなか第一歩が踏み出せないのは、どのような原因があるからでしょうか。日本に来て3年目に入る私は、答える能力をもっているはずがないと思います。ただ、今晚(8/26日)日本の友人の親切さに感心しながら、一方で、日本の社会に対して失望させられています。

ています。

というのは、私は友人の招待で長居第2陸上競技場へ足を運び、そこで'95 Jリーグ N I C O S シリーズを観戦したからです。前半戦が終わり、休憩に入るころのことで、大きな電光掲示板にはJリーグの最新の情報が出たりしていました。突然、目に入った「お知らせ」に腹が立ちました。「…外国人不法就労、外国人犯罪を防ぎ、明るい大阪…」と言うような警察署からの知らせがありました。サッカーを楽しみにきたのに、いい気持ちがある知らせのお陰で損なわれた。犯罪を防ぐために、どの社会も一生懸命工夫をこらしています。しかし、わざわざ「外国人」のことだけを話題に出す必要がありません。それも、「外国人不法



私が日本に足を踏み入れて7年半という長かったようで短かったような年月が経った。今でも1988年3月31日の来日した日のことは鮮明に覚えている。離陸する飛行機の中で、私は「俺は長男でありながら愛する家族と彼女を置いてまで日本に留学するのだから、どんなことがあっても目的を達成して帰って来るぞ」と拳を握りしめながらそう決心した。今になって振り返ってみると、確かにその時の気持ちを持ち続けることができたから今まで頑張ってきたかも知れないという気がする。勉強が思うように進まず落ち込んだ時や経済的に苦しかった時でもそれを苦とは思わないで前を向いて進むことができた。ロータリーとの出会いがなければおそらく自分は、視野の狭い人間で自分のことしか考えない人にすぎなかった。

日本での生活にも慣れ、堺おおいづみロータリークラブにお世話になって1年経ち、これ以上ないうれしさとともに様々な体験をすることもできた。さらに研究活動も順調に進み、いろんな意味で余裕ができ、自信

就労」・「外国人犯罪」といったことを完全に防いだからといって、明るい大阪が創れるわけありません。むしろ、青少年が大半を占める観客に「外国人と不法就労」・「外国人と犯罪」といった連想的なイメージしか与えないと思います。

一万人の若者達に無意識にそのようなものを植え付けたり、呼びかけたりしては、「国際人」になれるはずがないのではないのでしょうか。人間と人間の付き合いがうまくできるには、第一印象が一番重要なのです。「外国人」を総合的に「不法就労」・「犯罪」といった警告語をJリーグで出す必要性があるのかどうかを再び見直してほしいのです。

## 更なる成長

第2640地区 堺おおいづみRC

金 龍 沫

(大阪府立大学)

さえ持つようになった。しかし、1月の震災を期に思わぬ壁にぶつかってしまった。まず第一の壁は、今私は何のために勉強をしているのかという疑問から生じたものである。第二の壁は奨学金の意味から生じたものである。第三の壁は米山奨学生としてこれからどう恩返しをすべきということである。これらの壁に対して三つに分けて表現したものの、突き詰めていけば本質的には同じようなものだと思う。なぜ、私は米山奨学生になって直ぐにこのような疑問を抱くことができなかつたか。とは言っても、私の研究テーマである労使関係問題は、今日の韓国の経済環境を考えると、日本で労使関係を研究することは十分意義があると思われる。そして、米山奨学生として恥じないように勉強に励むことで恩返しができるのではないかと安易に考えてきた。確かにこのような考え方が全く間違っているとは思わないが、私自身にとってはもう一つ満足できる答えではなかつた。特に、震災の直後、言葉で表現できないようなすさまじい光景を目にしてからの私の煩惱は

自分でも制御できないものであった。幸い私の家族は大した怪我もなく命の危機を感じるほどの被害も受けなかったにもかかわらず、私はロータリーの方々をはじめいろんな人から援助をうけたり励まされた。この時、私は初めて自分より困難な状況に陥っている人々のことを真剣に考えるようになった。すなわち、今世界中には最低限の生活や延命に必要な物を調達できない人々が大勢いることに気づいたのである。今私が頂いている奨学金がもしその人らのために使われるとすれば一体何人の命が救われるのだろうか。わが身可愛さで如何に自分だけ



おのおの国には 自分の習慣と歴史があります。どちらがいいか、わるいかはいえません。国によって違いますがやはり “When in Rome do as Romans do” がただしきことと思っています。いま私はローマにいないじゃなくて、日本にいます。タイの習慣と比べて全然違います。でもいま日本に勉強に来ているから、日本人や日本の習慣や日本の文化などをもっと知りたいです。日本の面白い言葉は、“げつげつかすいもくきんきん” です。日本は勤勉な国民の国ですから、土曜日と日曜日という世界的な休日はあまり考えられなかったようです。日本人は仕事が一番だと思っているようで、たぶん過労死は日本にあるだけかも知れません。そのほか謙虚な気持ちと尊敬の念もあるので、世界の先進国になれたと思います。

前から面白いと思っているのが寿やのし袋や祝儀袋の使い方です。これらは日本の文化の1つであり、お茶の儀式は日本の古典の芸術だと思っています。

日本語を勉強する時、“イショク足りて礼節を知る” のことわざをならいました。新聞の投書欄から、現代の “イ”

中学1年生の漢字テストの採点をしてい

が大変な困難に陥っていると思っても、それは自分自身の目的達成のためのものであり、最初からある程度のことは覚悟の上だったはずである。

欲深さからの目的達成とか綺麗ごとで恩返しをするというのはあまりにも無責任な気がしてならない。とは言っても、これと言うような明らかな形での満足できる答えを出すことは決して簡単ではないと思われる。が、もう一度襟を正して奨学金の意味を吟味しつつ、私のできることは何かを考えるこの頃である。

## 真の国際交流について

第2640地区 堺清陵RC

ガンラヤック チャイカンパー

(大阪市立大学)

たら “イショク足りて礼節を知る” の “イ” に住居の “居” をあてた答案が続出。さすが東京の子だと、思わず花マルをつけたくなった。地方出身の私は中学時代、“医食” と書いてしまった記憶がある。(礼節を知りたい教師29歳)

このことわざは、“衣食足りて礼節を知る” が正解。生活に困ることがなくなっただけで、人は礼儀に心を向ける余裕がでてくる、という意味。

着るものもなく、食べるものもなければ、礼儀に気を配るゆとりは持てない。まず大切なのは “衣食”、と昔の人は考えたのだろう。ところが現代の日本では、着るものに困る人などまずいない。従って “イショク足りて礼節を知る” の昔の意味はもう変わってきた。でもタイ国ではまだ昔の意味を考えています。

忘れられないことは私の先生の言葉、“まだ仕事ができる時一生懸命頑張ってください”。あの時あまり感じませんでした。先生はいまガンに冒されています。でも先生は自分でガンにかかったことをすでに知っています。けれども、あきらめなく、一生懸命に働きます。私は先生に頭が下がります。いまあの言葉をよく分かるようになりまし

た。本当にいろいろしたいことと知りたいことがいっぱいありますので、日本での留学は、私にとってとてもいいチャンスであり、日本の先端技術を勉強したいのです。将来国に帰ったら人びとに日本人の友情を伝えたいと思います。

日本のような自由、民主、繁栄の国を目指し、科学や真理の追究は世界の共通目的



中国語では字ずらが同じ単語であっても、場所を換えれば意味が違ってくる場合がよくあります。たとえば、香港でよく知られている面白い同字異義の例を挙げてみたいと思います。私たち香港では「愛人」と言えば、恋人のことですが（ちなみに、台湾でも同じ）、一方中国大陸では配偶者、つまり夫や妻のことを指します。また、日本では、これらとは全く逆で一般に既婚者の浮気相手のことを意味します。全く同じ単語でもこんなに意味が違うものもあります。どうも、中国では自分の夫や妻のことを名前ではなく、「愛人 (airen)」と呼び合っている人も居ます。もし日本人がこの呼び名を聞けば、さぞ驚くことでしょう。

中華民族最大の絆である漢字ですが、例えば、「プログラム」の訳は、中国大陸では「程序」ですが、香港は「程式」となります。「ファイル」はそれぞれ、「文件」と、「当案」です。専門用語の訳語はかなり違います。また、中国語の各方言は、耳で聞くと、お互いが外国語に近いのを耳にしたことのある人が多いと思います。当然、文章にすると、意味は通じるため、漢字は中華民族最大の絆とされてきました。

だが、中国では、共産党政権による簡体字の採用や、外国人の人名・地名など漢字表記のばらつきに、国の社会制度の違いから生じる言葉のニュアンスのずれに加わって、同じ漢字を使う華人社会に混乱を生み出しました。

である。

日本国民だけでなく、全世界の人びとと常々相互交流しているのは新しい見方を生んだり、意外なひらめきを与え合ったりできるかもしれない。これから私はもっとがんばりたい、タイ人と日本人との友好交流の橋を掛ける役割を果たしていきたいと思います。

## 字体統一と方言尊重と

第2640地区 海南RC

黄 翠 鳳

(和歌山大学)

現在、香港と台湾は中国に同調せず、今も繁体字を使い、専門的語彙はすべて独自のものを作り出してきました。しかし、シンガポールなどでは、中国大陸と同じ簡体字を使い、外国人の人名・地名なども全部中国大陸の表記法に合わせています。

例えば、日本企業の「ミノルタ」は、大陸では「美能達」と訳し、香港と台湾では、「万能達」と言う違う訳になってしまうのです。

香港にも広東語という独特の漢字があります。香港では、部数を伸ばすため、広東語独自の言葉を多く使う雑誌がたくさんあります。もちろん、広東語の分からない人にとっては、大変困ることになるでしょう。

香港を拠点にアジアを広くカバーする衛星放送「スターテレビ」が、各地の華人向けに方言（広東語がほとんど）によるきめ細かい放送も可能になっています。一体、これから、中国語が統一に向かうのか、それとも、方言が生命力を伸ばすのか、各地の華人社会の激しい競争による結果となりそうです。



# 1995年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿

1995年11月18日現在

会長	許 紫芬 (山岡 由佳) 甲子園大学 経営情報学部 専任講師 〒550 大阪市西区江之子島1-8-21-411	[大阪東R.C.] ☎: 06-445-1090(H) FAX: 06-445-1090(H)
幹事長	王 充志 明光証券 〒559 大阪市住之江区新北島3-9新北島コーポ4-703	[西宮甲子園R.C.] ☎: 06-682-8210(H)
副会長		
D-2640	鄧 紅 〒593 堺市草部1021番地9-408	☎: 0722-72-5568(H)
D-2650	清河 雅孝 京都産業大学 法学部教授 〒607 京都市山科区御陵牛尾町72-7	[山科R.C.] ☎: 075-594-2029(H) FAX: 075-594-5249(H)
D-2660	梁 官洙 Yang Kwan soo 大阪経済法科大学アジア研究所 研究員 〒544 大阪市生野区中川西1-19-1	[大阪住之江R.C.] ☎: 06-741-5065 FAX: 06-741-5065
D-2680	呉 淑芬 (株)コベルコ 科研 〒651 神戸市中央区山本通2-13-10	[神戸須磨R.C.] ☎: 078-221-5160(H)
会報編集代表	呉 賢龍 (大塚 賢龍) 甲子園大学 経営情報学部 助教授 〒532 大阪市淀川区三津屋北1-6-20	[堺東R.C.] ☎: 06-301-3358(H) FAX: 06-300-5271
幹事	陳世明 075-581-4986	
学術	陳 麗華 〒555 大阪市西淀川区佃5-12-5-905	[奈良R.C.] ☎: 06-477-2832(H) FAX: 06-477-2832
庶務	林 文彬 大阪職業能力開発短期大学 講師 〒596 岸和田市春木泉町3-7-302	[京都東R.C.]
会計	王 昭文 大阪市立大学 人間福祉学 〒556 大阪市浪速区敷津西2-9-2 八阪ハイツ807	[大阪船場R.C.] ☎: 06-636-1070 FAX: 06-636-1070
書記	顧 海松 松下電工 (株) 〒565 大阪府吹田市山田西4-4-14-505	[大阪東R.C.] ☎: 06-878-6061 FAX: 06-878-6061
親睦	文 楚雄 立命館大学 経済学部 常勤講師 〒616 京都市右京区梅ヶ畑箕野町28福井アパート1-2	[京都西北R.C.] ☎: 075-864-0923(H)
国際交流	桂 小蘭 大阪大学言語文化研究科博士課程 〒560 豊中市千里園3-1-44-2	[大阪西北R.C.] 857-7215 ☎: 06-857-7215(H) FAX: 06-857-7215
顧問	林 錫璋 桃山学院大学 経済学部 教授 〒593 堺市鳳中町8-284-7	[名古屋西R.C.] 7215 ☎: 0722-62-4633(H) FAX: 0722-62-4633(H)
会計監査	莊園 福松 税理士 〒530 大阪市北区鶴野町4 コーポ野村梅田A-216	[神戸R.C.] ☎: 06-375-1070(H)
相談役	重光 世洋 大阪産業大学工学部 教授 〒630 奈良市七条西1-11-19	[大阪R.C.] ☎: 0742-44-5004(H) 0720-75-3001 (内線3711) (O)

米山奨学生学友会（関西）  
1994年度会計収支決算報告書

自1994年4月1日  
至1995年3月31日

収入の部		
科目	金額	備考
前年度の繰越金	798,117	
総会の参加費	480,000	
通常会費	106,000	53名×2,000
特別会費	140,000	
寄付金	133,000	
米山奨学会補助金	465,000	
援助交付金	550,000	D-2640 100,000 D-2650 100,000 D-2660 250,000 D-2680 100,000
利息	926	
合計	2,673,043	
支出の部		
科目	金額	備考
総会費用	749,042	
役員会議費用	162,352	
交流会費	534,628	
通信費	209,871	
交通費	21,180	
事務用品費	75,178	
広報及び印刷費	285,671	会報11号
雑費	67,631	
次年度への繰越金	567,490	
合計	2,673,043	

現金	¥131,643
住友／梅田北口普通預金 NO.1378636	¥73,757
郵便局 00990-9-43449	¥362,090

私は、1994年度（1994年4月1日から1995年3月31日まで）における会計の監査を行い、次の通り報告します。

収支計算書、財産目録は会計帳簿及び関係証憑書類の記載金額と一致し、収支状況及び財政状態を正しく示していると認めます。

会計監査 莊園 福松 捺印

## 米山奨学生学友会（関西）1995年度活動報告

米山奨学生学友会（関西） 会長 山岡由佳

### 1. 主な行事

#### A. 米山奨学生学友会（関西）

創立10周年記念総会及び新入生歓迎会

日 時：1995年6月4日（日）

場 所：大東洋

参加人員：ロータリアン 34名

OB会員 31名

新規・継続奨学生 32名

内容：次期会長清河雅孝選出、各報告、  
懇親会、新入生歓迎会、米山学友会  
交流会

#### B. 米山奨学生学友会（関西）

創立10周年記念シンポジウム及び懇親会

日 時：1995年11月4日（土）

場 所：大阪国際交流センター

参加人員：ロータリアン 22名

OB会員 27名

新規・継続奨学生 15名

内容：第一部：学友会の国際化について  
—文化交流と留学生の役割—  
第二部：日本留学中に会おうさまざ  
まな問題点  
懇親会：ロータリアン・OB会員・  
新規・継続奨学生との交流

#### 2. 1995年7月30日 第1回役員会議

場所：大阪市立弁天町市民学習センター  
第2会議室

- ①創立10周年記念シンポジウム及び懇親会の方針を決定
- ②創立10周年記念特集の発行を決定
- ③総会未参加者へ会報第11号、年度会計報告と会費納入振込用紙の送付

#### 3. 1995年9月30日 第2回役員会議

場所：大阪国際交流センター第5会議室

- ①創立10周年記念シンポジウム及び懇親会の仕事配分について
- ②創立10周年記念特集原稿の依頼について

#### 4. 1995年11月18日会報第12号（創立10周年記念特集）の編集会議を行い、今後の方針を検討

## 会 員 の 消 息

- 受賞 山岡由佳会長（許 紫芬）の著書『長崎華商経営の史的研究』は日本経営協会（社団法人）から平成7年度の経営科学文献賞〔奨励賞〕を受賞されました。（本書は中国式収支簿記法の分析・研究を行ったものであり、経営史の分野での大いなる貢献が期待される。）



- 出産 藤岡寧発（李 寧發）に95年8月8日、男子、誕生されました。  
顧海松に95年12月6日、男子、誕生されました。

☆皆さん、おめでとうございます。

- 米山学友会（台湾）—“台湾扶輪米山会”—新役員（1995年11月現在）

会 長：徐重二（統一超商(服)社長）

副会長：楊承淑（輔仁大学翻譯研究所所長）

幹事長：趙恩惠（常信法律事務所弁護士）

連絡先：中華民國台湾台北市市民権西路20号10F-10

TEL: (02) 567-8448 FAX: (02) 567-8447

# 米山奨学会 学友数表

1995年9月11日現在

## 9月11日現在の学友の状況

日本在住学友数	1437名
海外在住学友数	3350名
住所不明	429名
合 計	5216名

## ○在日学友会別人数

学友会	地区			
北関東	2550	栃木県在住	} 県別に活動をしています。	15名
	2820	茨城県在住		66
東 京	2580	東京でお世話	関東在住 (東京・埼玉・神奈川・千葉)	230
	2750	関東以外でお世話	神奈川・千葉を除く関東在住	121 (351)
関 東	2570	2570地区でお世話	関東在住	34
	2770	2770地区で	” ”	44
	2590	2590地区で	” ”	55
		関東以外でお世話	関東在住	39
				( 94)
	2780	2780地区でお世話	関東在住	35
	2790	2790地区	” ”	50
		関東以外でお世話	千葉県在住	32
				( 82)
関 西	2650	2650地区でお世話	関西在住	78
		関西以外でお世話	京都・福井・滋賀・奈良在住	12
				( 90)
	2640	2640地区でお世話	関西在住	43
		関西以外でお世話	和歌山・大阪 (2640地区) 在住	3
西 日 本	2660	2660地区でお世話	関西在住	68
		関西以外でお世話	大阪 (2660地区) 在住	19
				( 133)
西日本	2680	2680地区でお世話	関西在住	40
		他地区でお世話	兵庫在住	4
				( 44)
	2670	四国全県在住		14
	2690	鳥取・島根・岡山在住		23
	2710	広島・山口在住		37
	2700	福岡在住		48
2740	佐賀・長崎在住		17	
2720	大分・熊本在住		16	
2730	宮崎・鹿児島在住		12	
			1155名	

※学友会のない地区があるため、日本在住学友数と異なる。

(財)ロータリー米山記念奨学会より提供

米山奨学生数国別一覧表

1995年5月現在

	国・地域名	1995 学年度	過去累計			国・地域名	1995 学年度	過去累計	
			実数	通算				実数	通算
ア ジ ア	バングラデシュ	22	88	141	ア フ リ カ	タンザニア		2	2
	ミャンマー (ビルマ)	4	13	21		チュニジア		1	1
	カンボジア	1	1	1		ウガンダ	2	3	3
	香港	13	100	181		ザイール	1	2	3
	インド	3	61	97		ザンビア		3	3
	インドネシア	30	111	181	計	11	65	97	
	大韓民国	321	1,773	3,347	オ セ ア ニ ア	オーストラリア	2	8	17
	ラオス		2	4		フィジー		1	1
	マレーシア	97	473	784		ニュージーランド	1	6	12
	ネパール	7	31	46		バプアニューギニア		5	5
	パキスタン	1	12	21		ソロモン諸島		1	1
	中華人民共和国	211	551	864	計	3	21	36	
	フィリピン	8	46	73	北 ・ 中 ・ 南 米	アルゼンチン		10	17
	ポルトガル (マカオ)	1	22	37		ボリビア		2	3
	シンガポール	1	17	28		ブラジル		47	78
	スリランカ	11	72	136		カナダ	1	4	7
	台湾	171	2,176	3,958		チリ	1	3	5
	タイ	11	98	158		コロンビア		1	1
	チベット		1	3		エルサルバドル		2	2
ベトナム	1	196	376	グアテマラ			1	1	
計	914	5,844	10,457	メキシコ		4	13	15	
中 近 東	アフガニスタン		12	19		ペルー	1	13	23
	イスラエル	1	7	10		アメリカ合衆国	6	43	71
	イラク		1	1		ベネズエラ	1	5	8
	イラン	1	12	29		計	14	144	231
	トルコ	1	4	6		オ ー ス ト リ ア  ベルギー ブルガリア イギリス フランス ドイツ イタリア オランダ ポーランド ロシア共和国 スペイン スイス ユーゴスラビア 計	オーストリア		3
	計	3	36	65	ベルギー			2	2
ア フ リ カ	カメルーン		1	1	ブルガリア			1	2
	コンゴ	1	1	1	イギリス			5	7
	コートジボアール		1	2	フランス		1	7	11
	エジプト・アラブ共和国	1	15	28	ドイツ		1	11	17
	エチオピア		5	8	イタリア		1	9	13
	ガーナ	1	7	11	オランダ			1	2
	ギニアビッサウ	1	1	1	ポーランド			1	2
	ケニア	2	11	16	ロシア共和国		1	1	2
	マダガスカル	1	2	3	スペイン			2	3
	マリ		1	2	スイス		2	3	
	ナイジェリア		5	7	ユーゴスラビア		1	2	
	セネガル		1	2	計	4	46	70	
	シエラレオネ	1	1	1	総 数	949	6,156	10,956	
	南アフリカ共和国		1	1		42カ国	75カ国		
	スーダン		1	1					

95年度米山奨学生学友会名簿より転載

1995年度米山奨学生学友会関西地区会員名簿

奨学生の番号順で次の通り

1995年11月4日現在

今井新太郎	00006	鄧 尚昇	01893	劉 景東	03506	林 明志	04497
重光 世洋	00066	鄭 晶心	02068	王 冬兰	03507	林 獻山	04498
中山 勝富	00168	廬 本文	02070	李 東	03510	劉 慧真	04500
上條 勝常	00170	早川 由美	02077	辜 秀秀	03724	朴 勝子	04502
林 錫璋	00204	張 謙益	02089	林 妙音	03727	朴 信貞	04503
香島 明雄	00235	福山 嘉一	02236	林 云鉉	03728	葉 淑節	04508
沈沢 政男	00262	河 允姫	02253	鄭 寅謨	03735	陳 喜英	04509
黄 振祥	00368	辛 嘉靖	02260	李 起子	03738	黄 筱雅	04513
郭 顯榮	00372	高樹 亮一	02467	金 孝仙	03748	金 活蘭	04514
郭許 瑤琴	00465	權 貴玉	02475	朴 三用	03750	金 瓏教	04516
徳山 卓也	00497	李 靜淑	02476	譚 珊珊	03751	李 惠敬	04518
清河 雅孝	00577	唐沢 宗良	02498	金 寶英	03752	陳 昌淑	04526
林 茂宏	00584	朴 政九	02500	黄 曉芬	03840	徐 漢兢	04531
豊田 秋雄	00590	張 哲珉	02550	楊 克儉	03841	金 芝均	04532
林 宏作	00596	陳 麗華	02739	金 力	03843	林 日東	04535
黄 文雄	00647	何 玉翠	02741	莫 明春	03844	朴 紀衍	04537
東 正伯	00651	林 琇春	02747	劉 雨珍	03847	楊 建興	04540
李 展龍	00713	朴 美子	02750	江 國平	04055	龔 千芳	04543
西原 正雄	00721	朴 誠國	02751	崔 冷	04056	黄 愛玲	04544
宮崎 ちな(幸珍)	00734	南 相錦	02763	任 喜敬	04062	李 楚倫	04547
高本 智正	00967	梁 官洙	02788	李 炳男	04066	朴 考卿	04549
魏 栢良	00972	姜 兑欣	02791	吳 賜金	04070	柳 美成	04550
莊園 福松	00975	朴 鐘祐	02793	白 丙基	04071	徐 源亨	04554
小林 裕生	00984	王 充志	02796	王 旭志	04074	徐 珏洙	04627
黄 光前	01109	吳 淑芬	02798	安 敬温	04076	林 文彬	04629
大田 一博	01122	陳 士昌	02808	韓 賢燮	04077	金 玉善	04634
南 俊彦	01135	藤森 信一	02987	杭 海莉	04078	劉 兵	04636
武田 維明	01140	金 秀芝	02992	許 文九	04079	羊 亜平	04685
張 壁東	01266	蕭 麗幸	03022	文 錫中	04084	徐 慈懷	04689
鍾 雲海	01279	梁 貞模	03029	田中 敏如	04085	廖 朝暉	04699
林 克	01385	劉 泰均	03041	王 惠津	04089	邵 永裕	04700
吳 賢龍	01409	文 兑景	03051	黄 鎮杰	04095	孫 誠	04701
廖 登稔	01440	蔡 秀娟	03059	金 高男	04098	王 毅	04702
蘇 顯揚	01456	侯 小南	03131	金 容珣	04100	顧 海松	04706
羅 成純	01467	包 承柯	03137	王 昭文	04103	桂 小蘭	04707
李 惠玲	01538	余 松姫	03261	尹 淑鉉	04105	李 嘉林	04710
文 燕友	01549	王 桂香	03365	徐 貴淑	04186	于 水	04712
石田 光雄	01588	柳 政和	03367	馬 燕	04214	劉 莉	04713
車 季南	01700	張 韓模	03376	文 楚雄	04215	劉 紹明	04714
黄 晨昌	01704	蕭 春蓮	03382	顧 澤蒼	04216	趙 晟佰	04968
劉 明治	01709	王 石明	03399	王 淑怡	04272	崔 賢淑	04969
吳 俊雄	01739	全 玫樂	03401	張 瓊文	04487	徐 慧如	04972
竹田 淑恵	01752	洪 徳俊	03403	陳 愛莉	04491	朴 宰杰	04979
山岡 由佳	01880	李 暎一	03468	黄 英哲	04493	曹 一徳	04981
松井 仁淑	01884	肖 敏悟	03503	金 明珠	04494	金 美京	04985

李 珍珠 04986	林 信男 05007	馮 匹相 05051	鄭 霞清 05173
文 相喆 04989	潘 亮文 05009	鄧 紅 05095	林 勳 05177
孫 寶徵 04992	戴 金燕 05010	安 成模 05096	鄭 甘澍 05179
元 濟亨 04995	柳 成林 05013	崔 銀珠 05097	阿布里孜烏拉木 05180
黃 武鐵 04999	曹 美庚 05014	李 振宝 05098	胡 新成 05181
金 德述 05000	金 相圭 05016	孫 國強 05099	張 曉輝 05183
賴 明玲 05002	李 惠儀 05017	崔 弘石 05100	潘 靜 05186
李 文英 05005	潘 金龍 05019	劉 民涼 05168	蘇 燕 05187
林 聖一 05006	張 昌聖 05022	周 瑋生 05172	徐 越 08189

リー・ファット (藤岡 寧発)	00729	ウェルク, テコラ	03383
ファン・ドック・ロイ	00985	ザヤニ・モハメッド・ヘディ	03400
トラン・コン・ティエン	01139	ブラダン, ジャヤ・ラム	03405
バハードル・サルダール・カーン	01258	リム・チン・チョウ	03749
フィーノ・ジュゼッペ	01274	シュレスト, ディネス・ブラサド	03754
ベリーニ・リノ	01308	タバオ, ヘンリー・アッグレス	04110
アシュリー・ファラマルツ	01850	テオ・チュウ・シアン	04506
藤原エミリオ	01891	ウォータース, カレン・ジュリア	04507
モータメド・エクテサビ, ミトラ	01906	パナンウェラー, ニャーナランカーラ	04523
アディカリ, バドリ・ナート	02065	フー・シャン・ルイ	04529
チャンドララル, ディリーブ	02483	マイディン, シャフル・ハミード・ビン	04805
リー・ケン・チョアン	03170	ビック, シティワンノー	04967
ロレンゾ, エスペランザ・セシリア S.	03362		(以上敬称略)

## 編集後記

この会報12号は、「米山奨学生学友会 (関西)」創立10周年記念に当たり、特別記念号として、発行したものです。この記念すべき特別号には2650、2660、2680および2640地区のロータリアン、学友会会員と現奨学生より、寄せられた特別な寄稿を、執筆者の写真とともに掲載しました。特に、1995年11月4日大阪国際交流センターで開催した創立10周年記念シンポジウムの記録も載せました。ご味読ください。学友会会員・奨学生の現状、並びに米山奨学会事業の理解の一助として、また、お互いのコミュニケーションにも役立つよう念願しております。

今回の投稿数は、一番多く、内容も一層充実してきました。会報のページ数が従来のはほぼ倍となりましたが、浅井晴雄様 (昭文堂印刷(株)社長) と同社業務部河井透様のご協力とご支援により、お陰で立派な会報ができました。ここに厚く御礼申し上げます。

編集委員代表 大塚賢龍

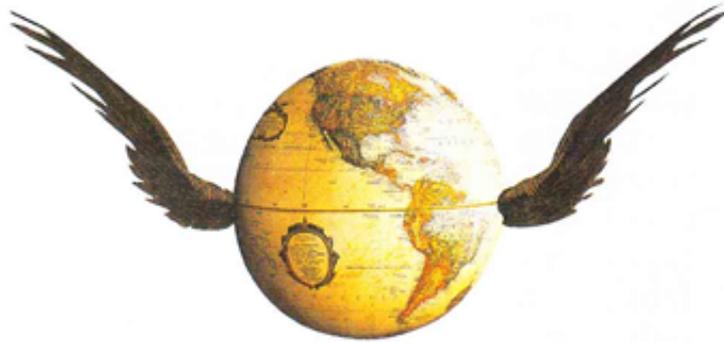
## 編集委員

大塚賢龍  
山岡由佳  
王 充志  
文 楚雄  
陳 麗華

## 創立10周年記念特集 (米山奨学生学友会 (関西) 会報第12号)

1996年1月30日発行  
発行者：ロータリー米山奨学生学友会 (関西)  
会長 山岡由佳  
〒550 大阪市西区江之子島1-8-21-411  
Tel: 06-445-1090

印刷所：昭文堂印刷株式会社  
〒530 大阪市北区芝田2-2-32  
Tel: 06-372-0071



ROTARY  
YONEYAMA  
SCHOLARSHIP  
ALUMNI  
ASSOCIATION

**YO NE YA MA**

**12**